

「田んぼの学校」実施報告書

2017年度

野川で遊ぶまちづくりの会

目次

1. 企画書	1
2. 実施計画・報告書	3
3. 会計報告	3 3
4. おたより	3 4
5. 参加者名簿	7 0
6. 参加者感想文集	7 2
7. 総括報告	1 1 4
付録. 調査記録	1 1 6

1. 企画書

「田んぼの学校」

企画名：佐須で持続可能社会を实践！！

野川で遊ぶまちづくりの会

都会の谷戸と湧き水の小川

東京の区部に隣接する調布市には多摩川の支流である野川が流れています。野川は府中崖線の湧き水を集めて流れる都会では貴重な清流です。その野川に府中崖線の谷戸から湧き出る水を源流とする小川（一部コンクリートによる用水路）があり、昔から、谷戸から野川までの川沿いに田んぼがありました。今でも田んぼを続ける農家があり、谷戸には雑木林があり、ホタルも飛ぶ都会では信じられないような環境が残っています。しかしながら、田んぼも減りつつあり、雑木林も手入れがされず、このままでは、この貴重な環境がなくなってしまう。

田んぼで遊び、学ぼう

私たちの会では、会の名前にあるとおり、野川で遊びながら、野川を子供達が遊べる（泳げる）川にするために、まちづくりの提言をしていこうという趣旨で活動（1991年2月発足、ホームページ：<http://nogawa-tanbo.jp/>）しています。

野川の支流である小川（通称佐須用水）の清掃と生き物観察会をしているとき、会員の一人が田んぼをやらないかとつぶやいた一言がこの地で田んぼをやるきっかけになりました。

何事も実践（遊ぶこと）からという私たちの活動にはぴったりの課題でした。野川のいのちはこの湧き水です。この湧き水がまた多くのいのちを育てているということ、体感できる田んぼはまさしく「田んぼの学校」でした。幸い、近くの農家に友人がおり、援農という形で、田んぼを始めることができました。それから25年、会員を中心に田んぼをやってきて、自分達だけでなんとかできるという自信がつくところまで来ました。

昨年も同様の企画で後援をいただき、事業を実施することができました。本年も田んぼを調布に残したいという私たちの想いで「田んぼの学校」を継続する所存です。

この地域を保全するため、またよりよくするため、市民の方々に広く知っていただくために親子（子供は小中学生）参加者、田んぼの保全事業の後継者育成を目指した参加者を公募し、広く市民に理解していただくことを企画いたします。具体的な内容は日程表をご参照下さい。

2017年度「田んぼの学校」年間予定表

- | | | |
|-----|------------|--|
| 1. | 4月 9日 (日) | ◎「田んぼの学校」開校式
◎第一部 説明会
◎第二部 春の野草観察会 |
| 2. | 4月16日 (日) | ◎種籾準備 (水に浸ける) |
| 3. | 4月22日 (土) | ◎苗床作り◎堆肥切り返し◎畦草刈り |
| 4. | 4月23日 (日) | ◎苗床作り◎種まき |
| 5. | 4月23日 (日) | ◎用水路清掃◎生き物観察 |
| 6. | 5月14日 (日) | ◎堆肥入れ◎荒起こし◎畦草刈り◎くろつけ準備 |
| 7. | 6月 4日 (日) | ◎くろつけ |
| 8. | 6月10日 (土) | ◎苗取り◎しろかき |
| 9. | 6月11日 (日) | ◎田植え |
| 10. | 6月11日 (日) | ◎ホタル鑑賞会 (予定) |
| 11. | 7月 9日 (日) | ◎一番草 (草取り、根搔き) ◎畦草刈り
◎田んぼの生き物観察 |
| 12. | 8月18日 (金) | ◎柏野夏祭り参加(焼き鳥) (予定) |
| | 8月19日 (土) | ◎柏野夏祭り参加(焼き鳥) (予定) |
| 13. | 9月 3日 (日) | ◎田んぼの生き物観察 |
| 14. | 9月 3日 (日) | ◎カカシ作り |
| 15. | 10月 7日 (土) | ◎ハザ掛け準備◎稲刈り |
| 16. | 10月 8日 (日) | ◎稲刈り◎レンゲ種まき |
| 17. | 10月22日 (日) | ◎脱穀 |
| 18. | 11月 5日 (日) | ◎籾摺り |
| 19. | 11月12日 (日) | ◎精米 |
| 20. | 11月23日 (木) | ◎収穫祭 (餅つき、豚汁) |
| 21. | 12月 3日 (月) | ◎親子炭焼きディキャンプ◎しめ縄作り |
| 22. | 12月17日 (日) | ◎落ち葉拾い (堆肥作り) |
| 23. | 1月13日 (土) | ◎佐須地区どんど焼き (予定) |
| 24. | 1月14日 (日) | ◎堆肥切り返し |
| 25. | 2月 4日 (日) | ◎堆肥切り返し |
| 26. | 2月 4日 (日) | ◎縄緬い |
| 27. | 3月 4日 (日) | ◎「田んぼの学校」卒業式 (反省会) |

2. 実施計画・報告書

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	4月9日	日	開始時刻	13時00分	終了時刻	14時00分
実施日	4月9日	日	開始時刻	10時30分	終了時刻	11時30分
作業:	◎「田んぼの学校」開校式◎説明会					
課題:						
目的:	当会の活動を理解してもらう。また、今後の心構えなどを話し合う。					
内容:	参加者顔合わせ(自己紹介)、年間予定説明、名簿作成、質疑応答。					
要領:	<ul style="list-style-type: none"> ●開会の挨拶 ●説明会(当会の概要、年間日程、援農) ●質疑応答 ●参加確認(多数の場合、抽選) 					
準備:	●あくろすホール(1, 2)					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:					

留意事項:	-----					

備考:						

プログラムマニュアル					
プログラム名称:		田んぼの学校			
実施予定日	4月16日	日	開始時刻		終了時刻
実施日			開始時刻		終了時刻
作業:	種籾準備(水に浸ける)				
課題:	種って何? どうして芽が出るの?				
目的:	種の働きを理解する。				
内容:	種籾を選別し、発芽させる。				
要領:	<ul style="list-style-type: none"> ●最初に薄い食塩水(新鮮な卵が浮く程度)に種籾をつけて、浮いた種籾を選り分ける(苗床の余ったところで蒔いてみるのもいい)。 ●一度洗って、きれいな水に浸ける。酸素を必要とするので1日に一回は水を取りかえる。 ●発芽したら、冷蔵保存(5から10℃)する。 ●種蒔の前日に発芽していない場合、風呂の残り湯(30℃以下)に 				
準備:	●参加者に一握りずつ分けるもち米の種籾を用意する●				
用具:					
服装・装備:					
担当者:					
実施記録:	指導担当者名:				
	参加者名:				
	開始時刻		終了時刻		
	実施内容:				

留意事項:	-----				

備考:					

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	4月22日	土	開始時刻	10時00分	終了時刻	15時00分
実施日	4月22日	土	開始時刻	10時00分	終了時刻	15時00分
作業:	◎苗床作り					
課題:						
目的:	苗を育てる場所で、苗の成長に大きな影響がある。苗が順調に成長するための準備を十分に作る。					
内容:	●苗を育てるための苗床を作る。					
要領:	●田んぼの南側に幅1.2m、長さ12mくらいの広さの短冊畝つくる。土の塊は種籾より小さくなるように、大きなものを手ですりつぶす。●高さは他と同じにする。高くすると、乾燥しやすくなるため。●畝の両脇は7cmくらいの深さで水路を作り水を入れる。					
準備:	●農協で100mのネットを購入する。●湿った土では土が固まりやすいので、乾燥した時でないとう苗床作りはできない。天候によっては日程を変更する。●ただし、代掻きした苗床に種を蒔く方法もある。(直播きに近い)					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
留意事項:						
----- ----- ----- -----						
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	4月23日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
実施日	4月23日	日	開始時刻	13時00分	終了時刻	15時00分
作業:	◎種まき					
課題:	種籾の不思議にせまる					
目的:	苗半作という言葉があり、昔から苗作りが大切であることをあらわしていた。					
内容:	●種籾を蒔く。					
要領:	●もち米と粳米の種籾を4, 6の割合で、区別(もち米に粳米が混ざるともちにならない)して蒔く。●種籾は重ならない程度に密に蒔く。●薄く(5mmほど)土をかける。●かまぼこ状にネットをかける。					
準備:						
用具:	ネット、ネットフレーム(20本)、ふるい					
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:					

備考:	留意事項:					

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	5月14日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
実施日	5月14日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
作業:	◎堆肥入れ ◎荒起こし					
課題:	堆肥の養分は何？ 田んぼの荒起こしをしているとなぜか鳥がやってくる？					
目的:	雑木林から落ち葉を集め、鶏糞や糠、藁などで堆肥を作る有機農法は昔から普通に農家で行われたことを理解する。化学肥料との違いは何かを考える。					
内容:	●堆肥を田んぼに均等に撒く●撒いた堆肥を耕運機で漉き込む●畦の草刈りをする。●刈った草は田んぼに撒く。●畦の際に水路を作り、水を引く。					
要領:	●水路に堰を作り、田んぼに水を引き入れる●畦の際に水路を作る●畦に泥を塗り付ける分を畦から削る					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:					

留意事項:	-----					

備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	6月11日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	13時00分
実施日	6月11日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	13時00分
作業:	田植え					
課題:	丈夫に育て!					
目的:	米作りで田植えは昔から村総出で行う大きなイベントであった。昔も今も神様に祈る気持ちは同じである。人ができる主なことはここで終わると言うこともある。					
内容:	●田植えをする ●南側にもち米を田んぼの四割くらい植える					
要領:	●30cm間隔に印のついた縄(25m)を張り、印のついたところに植える。●縄は25cm間隔ですらしていく。●苗を植える人は、植え終わったら一步下がって自分の足跡をならす。●水は少な目に張る。					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻	10時			終了時刻	12時
	実施内容:					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
留意事項:	----- ----- -----					
	----- ----- -----					
	----- ----- -----					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		たんぼの学校				
実施予定日	6月11日	日	開始時刻	18時00分	終了時刻	20時00分
実施日	中止	中止	開始時刻		終了時刻	
作業:	ホテル鑑賞会					
課題:	ホテルはどこに棲む？					
目的:	ホテルの生育できる環境を理解する。					
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻	13時			終了時刻	16時
	実施内容:					

留意事項:	-----					

備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:						
実施予定日	6月18日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	11時00分
実施日			開始時刻		終了時刻	
作業:	補植					
課題:						
目的:						
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:					

留意事項:	-----					

備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	7月9日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	13時00分
実施日	7月9日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	13時00分
作業:	◎一番草(草取り、根掻き) ◎畦草刈り					
課題:	田んぼに何がいます?					
目的:	オタマジャクシ、ミジンコなど生き物でいっぱいになる田んぼでなにが起こっているか考える。					
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:	講師:石川氏					
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻		終了時刻			
	実施内容:					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
実施記録:	留意事項:					
	----- ----- -----					
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:						
実施予定日	8月25日	金	開始時刻	9時00分	終了時刻	12時00分
実施日	8月25日	金	開始時刻	10時00分	終了時刻	13時00分
作業:	夏祭り準備					
課題:						
目的:						
内容:	●テント張り●ちょうちん付け●やぐら紅白テープ巻き●掲示板設置●当会は焼き鳥の模擬店として参加する。					
要領:						
準備:	●備長炭15Kg2箱●ビニールパック、ビニール袋、輪ゴム、アルミホイール●食材(串焼き鳥1日約2000本、焼き鳥用タレ)●保温用ダンボールケース					
用具:						
服装・装備:						
担当者:	柏野夏祭り準備					
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
留意事項:						
----- ----- ----- -----						
備考:						

プログラムマニュアル							
プログラム名称:		田んぼの学校					
実施予定日	8月25日	金	開始時刻	13時00分	終了時刻	21時00分	
実施日	8月25日	金	開始時刻	13時00分	終了時刻	21時00分	
作業:	柏野夏祭り参加(焼き鳥)						
課題:							
目的:	地域の祭りに参加し、交流を図る。						
内容:	●2200本の焼き鳥を焼いて、1本120円で販売する。						
要領:	●焼き鳥は冷凍なので、開封して自然解凍する。●発泡ダンボールの箱で保存する。●タレは焼いた後1回だけ付ける●						
準備:							
用具:							
服装・装備:							
担当者:							
実施記録:	指導担当者名:						
	参加者名:						
	開始時刻				終了時刻		
	実施内容:						

留意事項:	-----						

備考:							

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	8月26日	土	開始時刻	13時00分	終了時刻	21時00分
実施日	8月26日	土	開始時刻	13時00分	終了時刻	21時00分
作業:	柏野夏祭り参加(焼き鳥)					
課題:						
目的:	地域の祭りに参加し、交流を図る。					
内容:	●2300本の焼き鳥を焼いて、1本120円で販売する。					
要領:	●焼き鳥は冷凍なので、開封して自然解凍する。●発泡ダンボールの箱で保存する。●タレは焼いた後1回だけ付ける●					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:					

留意事項:	-----					

備考:						

プログラムマニュアル							
プログラム名称:							
実施予定日	8月27日	日	開始時刻	9時00分	終了時刻	12時00分	
実施日	8月27日	日	開始時刻	8時00分	終了時刻	12時00分	
作業:	夏祭り片付け						
課題:							
目的:							
内容:							
要領:							
準備:							
用具:							
服装・装備:							
担当者:	柏野夏祭り(片づけ)						
実施記録:	指導担当者名:						
	参加者名:						
	開始時刻				終了時刻		
	実施内容:						

留意事項:	-----						

備考:							

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	9月3日	日	開始時刻	11時00分	終了時刻	13時00分
実施日	9月10日	日	開始時刻	12時00分	終了時刻	15時00分
作業:	カカシ作り					
課題:	カカシって何してるの？					
目的:	稲の穂に付いた糶をねらって鳥が来る。人も鳥も生きていることを考える。					
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻		終了時刻			
	実施内容:					

留意事項:	-----					

備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	10月8日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	13時00分
実施日	11月12日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	13時00分
作業:	◎稲刈り ◎レンゲ種まき					
課題:	刈った稲を干すのはなぜ？					
目的:	稲を干すのはなぜなのか考える。					
内容:	鳥除けの網を張る。					
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻		終了時刻			
	実施内容:					

	留意事項:					

備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	10月22日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	13時00分
実施日	11月19日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
作業:	脱穀					
課題:						
目的:						
内容:	●稲穂から種籾を取る●来年の種籾を確保する。					
要領:						
準備:	佐須地区の共同脱穀機(自走式)を借り、田んぼへ移動する。					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:					

留意事項:	-----					

備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	11月12日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
実施日	11月19日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
作業:	精米					
課題:	玄米、胚芽米、精米の違いは何？					
目的:	一粒の米に託されたものを考える。					
内容:	●精米機で精米する。●粳米は7分くらいにする。					
要領:	●					
準備:	●佐須地区の共同精米所にて行う。●カギは当番のところで借りる。●精米費は30Kg200円？を会計担当に支払う。(領収書無しです。)●カギと、会計の担当は竹内さんに確認する。●みの					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:					

留意事項:	-----					

備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	11月23日	木	開始時刻	8時30分	終了時刻	15時00分
実施日	11月26日	日	開始時刻	8時30分	終了時刻	15時00分
作業:	収穫祭(餅つき、豚汁)					
課題:	お米を作ったのは誰?					
目的:	お米作りを通して、人と自然の役割を考える。					
内容:						
要領:						
準備:	2000年に臼と杵は知人より入手した。かまどと、せいろは八雲台幼稚園の小林さんか佐須児童館で借りる。					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻		終了時刻			
	実施内容:					

留意事項:	-----					

備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	12月3日	日	開始時刻	9時00分	終了時刻	16時00分
実施日	12月3日	日	開始時刻	9時00分	終了時刻	16時00分
作業:	親子炭焼きディキャンプ					
課題:						
目的:	◎炭焼きの実践を花炭焼きで体験し、雑木林の役割を考える。 ◎火起こし体験					
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻		終了時刻			
	実施内容:					

留意事項:	-----					

備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	12月3日	日	開始時刻	14時00分	終了時刻	15時00分
実施日	12月3日	日	開始時刻	13時00分	終了時刻	14時00分
作業:	しめ縄作り					
課題:	しめ縄の由来は？					
目的:	お米作りとしめ縄の関係は？					
内容:	しめ縄も稲藁の利用の一つです。					
要領:						
準備:	佐須ふれあいの家を使用					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:					

留意事項:	-----					

備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	1月14日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
実施日	1月14日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
作業:	堆肥切り返し					
課題:						
目的:	堆肥発酵促進					
内容:	堆肥を移動することで、堆肥の切り返しを行う。					
要領:	<ul style="list-style-type: none"> ●堆肥を堆肥置き場の空いているところへ移動する。その際、積んであった堆肥が天地が逆になるようにする。 ●水分が足りないようであれば、バケツで水をかける。 ●必要であれば、鶏糞、米糠などを補充する。 					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻		終了時刻			
	実施内容:					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
留意事項:	----- ----- -----					
	----- ----- -----					
	----- ----- -----					
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	2月4日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
実施日	2月4日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
作業:	堆肥切り返し					
課題:						
目的:	堆肥発酵促進					
内容:	堆肥を移動することで、堆肥の切り返しを行う。					
要領:	<ul style="list-style-type: none"> ●堆肥を堆肥置き場の空いているところへ移動する。その際、積んであった堆肥が天地が逆になるようにする。 ●水分が足りないようであれば、バケツで水をかける。 ●必要であれば、鶏糞、米糠などを補充する。 					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:					

留意事項:	-----					

備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	2月4日	日	開始時刻	13時00分	終了時刻	15時00分
実施日	2月4日	日	開始時刻	13時00分	終了時刻	15時00分
作業:	縄織い、草鞋づくり					
課題:	昔の人は稲藁でさまざまな生活に必要なものを作ってきました。そのひとつが縄です。今年から草鞋作りも行います。					
目的:	稲藁を使って縄を織うことを通して先人の知恵を学ぶ。					
内容:	稲藁を使った縄織い。					
要領:						
準備:	佐須ふれあいの家を使用					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
備考:	留意事項:					
	----- ----- -----					

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	3月4日	日	開始時刻	11時00分	終了時刻	15時00分
実施日	3月11日	日	開始時刻	13時00分	終了時刻	17時00分
作業:	「田んぼの学校」卒業式(反省会)					
課題:	米つくりを終えて					
目的:	この1年で考えたこと、学んだことを確認する。					
内容:	●軽食を取りながら行う。●●					
要領:						
準備:	佐須ふれあいの家を使用					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻		終了時刻			
	実施内容:					

留意事項:	-----					

備考:						

3. 会計報告

2017年度田んぼの学校収支決算

	科目	コード	金額	備考
収入の部	前期繰越金	1000	3,616	
	受講料	1110	687,000	
	事業収入	1120	137,644	柏野夏祭り模擬店収益等
	会費	1210	20,000	
	寄付	1310	0	
	預かり金	1320	40,000	米代他
	立替入金	1330	70,000	
			0	
収入の部合計			958,260	
支出の部	消耗品費	2110	151,002	
	通信費	2120	164	インターネットサーバ他
	材料費	2130	0	種など
	交際費	2140	6,456	
	会議費	2150	36,719	
	教材費	2160	6,000	
	講師料	2170	190,000	
	講師補助費	2171	157,500	
	保険料	2180	0	
	燃料費	2190	5,025	
	印刷費	2200	0	
	修理費	2210	7,276	
	光熱水費	2220	10,000	
	賃貸料	2230	12,100	ふれあいの家
	交通費	2240	0	
	広報費	2250	35,000	
	研修費	2270	19,500	
	預かり金支出	2310	40,000	米代
	立替金	2320	70,000	
	手数料	2330	0	
	参加会費	2340	6,000	
			0	
支出の部合計			752,742	
収支差額			205,518	

4. 田んぼの学校 おたより

田んぼからのおたより2017

第1号 2017年4月16日発行

みなさん、お元気ですか。いよいよ「田んぼの学校」が始まりました。この「おたより」はこれから「田んぼの学校」とみなさんとのお互いの架け橋として創られます。内容は、「田んぼの学校」からのお知らせや、みなさんからのご意見などです。「田んぼの学校」についてわからないことがありましたら、お知らせください。私たち「田んぼの学校」のスタッフも17年目になりました。気がついたこと、いたらないことがありましたら教えてください。わからないことも質問してください。

体験をより充実させる為に

さて、「田んぼの学校」では、みなさんが田んぼでやったこと、見たこと、感じたことを記録することをお勧めします。ノートか野帳（野外観察用のフィールドノート）を用意し、思い思いに記録してください。できましたら、写真（撮りきりカメラで十分）も有るといいと思います。その日にあったこと、学んだことをお子さんと一緒に振り返ることで、体験がより充実したものになります。

種はつながっている

お米の起源は約15,000年前、インドもしくは中国雲南で始まったそうです。お米も最初は野生のもので、昔の人は野生の種をまいて育てたようです。そのうちに、まいて育てた稲から種をとるようになり、その種を持って東へ移り住み、または、東の地方にいる人に伝えられ、2,000から3,000年前に日本に伝わったといわれていましたが、それより以前、6,000年前の縄文時代に稲作の痕跡が見つかっています。

お手元にある種籾は、そのときの種とつながっています。品種改良はされていても、遺伝子という形でつながっているのです。

人間を含む多くの動物（昆虫など）もお米よりもさらにさかのぼる年月にわたってつながっています。機会があるようでしたら、自分たちのルーツをわかる範囲で追いかけてみてはいかがでしょうか。

つながらない種

科学が発達して、いろいろなことができるようになりました。その中でも重要なもののひとつに遺伝子に関する技術や発見があります。遺伝子組み換えは、はるか昔からつながっているお米の種に、つながらないものができるということを意味しています。大変難しい問題ですが、一度考えてみる必要があります。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

4月16日(日)の学習 内容「種粃(たねもみ)の準備」 場所「自宅」

昔から、お米の豊作を願わないものはいませんでした。その最初の仕事が種粃の選別です。中身の詰まった重い種粃が丈夫な稲に育つことを昔の人は経験的に知っていました。

ではどのようにして重い種粃と軽い種粃を区別したのでしょうか。昔の人は、泥水に種粃をつけて沈んだ種粃を使っていました。浮いた種粃は軽くて悪い種粃として選別していたのです。

今は、塩水を使います。食塩水に種粃をつけると重くて良い種粃は沈み、軽くて栄養分の少ない種粃は浮きます。これを「塩水選」といいます。真水では沈む種粃も食塩水では浮くのはなぜでしょうか。おとうさん、おかあさん、子どもといっしょに考えましょう。

それでは、入学式でお渡しした種粃(もち米で銘柄はマンゲツモチ)で塩水選をやってみましょう。

1. 準備

鍋やボールなど適当な入れ物を用意して下さい。

2. 食塩水

真水(水道水でも可)200ccに塩16gを溶かして下さい。この食塩水の比重は約1.08です。もち米はこの食塩水で塩水選をします。かなりしょっぱい食塩水です。



3. 塩水選

この食塩水に種粃をつけてください。

種粃全体をこの塩水につけ、ここで、沈んだ種粃が良い種粃です。浮いた種粃と沈んだ種粃を別にしてとりだし、それぞれ水で洗ってください。(塩分がついたままでは発芽に悪い)

水の表面張力で浮いている場合がありますので、注意してください。

4. 芽だし

次に、発芽を促すために種粃を新鮮な水に浸けておきます。選別した種粃の両方を同じように別々に水につけてみてください。15℃の水で、約1週間つけると発芽します。20℃なら5日くらいになります。水の温度が高いと早く発芽します。4月23(日)が種まきの予定ですが、それより早く芽が出たら(芽と根が1mm位になったら)、水を切って当日まで冷蔵庫に入れておいてください。低温にすることで発芽の成長が一時的に止まります。くれぐれも芽や根を伸ばしすぎて、モヤシのようにしないようにしてください。

芽出しに使う容器は大き目なものにし、水をたっぷり入れてください。

以上

田んぼからのおたより2017

第2号 2017年4月22日発行

みなさん、お元気ですか。もうこの「おたより」の2回目になりました。

いよいよ、田んぼでの仕事が始まります。田んぼでは、たくさんの生き物たちがみなさんをむかえてくれます。いろいろな草花、虫、鳥などです。どんな生き物に出会えるか楽しみですね。

わからないことがある場合は、遠慮なくお問い合わせ（尾辻 080-5012-5327）ください。

畑の広さの単位

田んぼの広さの単位についてちょっと調べてみました。私たちの田んぼは、3畝（せ）あります。約100坪（つぼ）。坪は畳2枚（3.3平方m）です。

1畝（約99平方m）、10畝で1反（たん、約991平方m）、10反で1町（ちょう、約9917平方m）です。

1畝は約1アール、100アールで1ヘクタールなので、1町が約1ヘクタールになります。

豊臣秀吉は、太閤検地と呼ばれる田畑の全国測量を行いました。そのとき、度量衡の統一も行われました。そのときに、1反360歩を300歩にしました。1畝30歩となり、1アールにきわめて近い値になりました。秀吉（実際に指揮したのは石田三成）は1アールという単位を知っていたものと思いましたが、調べた範囲ではそれらしい記述が見つかりません。反あたりの税収を上げるために300歩にしたという記述がありましたが、どうでしょうか。みなさんも調べてみませんか。

苗づくり

私たちの田んぼでは、田んぼの中に苗床を作ります。温室などで苗を作らない場合、平均気温が20度以上にならないと成長に影響があります。今年は、例年より暖かい日が多いので、苗の成長が順調に進みそうです。

お米を生産する農家では、機械植えが普通なので、苗は温室で育てられ、5月初旬(関東)には田植えが行われます。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。



4月22日(土)の学習(10:00~15:00) 苗床作り

4月23日(日)の学習(10:00~12:00) 種まき

内容： 苗床作り、種まき
場所： 田んぼ
持ち物その他： 作業着、軍手、昼食



苗床作り(22日)

苗床(なえとこ)は種籾をまいて稲の苗を育てるところです。発芽した種籾はここで丈夫な苗として育ちます。

1. 田んぼの南側寄りに1m幅、4m長の広さで苗床用の場所を東西方向に2本確保し、草を刈り取ります。
2. 耕運機でできるだけ細かく耕します。
3. 中央に1m幅の短冊状の畝(うね)を作ります。高さは周囲と同じ高さにします。
4. 両脇に10cmくらいの深さで水路をつけ、用水の引き込み口から水路をつなげて水を引き込めるようにします。
5. 畝は草の根やごみを取り除き、大きな土の固まりはふるいで選り分けて手ですりつぶします。

畦草刈り

農家の人にとって雑草(正確にはいろいろな野草というべき)は天敵と考えられています。雑草は、作物の栄養分を取ってしまったり、成長を妨げたりするからです。雑草取りは農家の人にとっては大変な重労働なので、除草剤などが使われたりしますが、有機農法では除草剤は使いません。最近では、雑草を味方にする研究なども行われています。いずれにしても、まわりの畑に雑草の種が撒き散らされることも有るので、雑草をそのままにすることはできません。

1. 小さい草刈りガマで畦(あぜ)の草刈りをします。
2. 刈り取った草は適当な場所に積み上げておきます。後日、荒起こしのときに田んぼに漉き込みます。このように刈り取った草は緑肥と呼ばれ、立派な有機肥料です。漉き込まれた草は土の中で腐敗して肥料になるからです。

畑の草取り

暖かくなると、畑にもどんどん草が生えてきます。小さいうちにとるのが賢明です。

種まき(23日10時から)

みなさんに準備していただいた種籾(もち米)と当会が準備した種籾を苗床に蒔きます。蒔き方はいろいろ有りますが、ちょうど良く蒔く(?)のがいちばん。

1. 苗床をもち米用（南側）、うるち米用（北側）にわけます。
2. 用意した種粃を厚すぎず、薄すぎず、ちょうど良く蒔きます。
3. 各自準備した種粃も、蒔きます。
4. 蒔いた種粃の上に薄く（3から5mmくらい）細かい土をかけます。（覆土・ふくど）
5. 板などを使ってある程度土を固めます。（鎮圧・ちんあつ）
6. 苗床全体にかまぼこ状にネット（寒冷紗・かんれいしゃ）をかけます。（防鳥）
7. 水路に水を引き込みます。水はかれない程度に苗床の周囲に回るようにします。

田んぼからのおたより2017

第3号 2017年4月23日発行

みなさん、お元気ですか。もうこの「おたより」の3回目になりました。

私たちの田んぼは佐須の用水に依存しています。現在も水利組合によって私たちの使っている用水の支流は田んぼで水を使う時期に泥さらいを行っています。本流は残念ながら、手つかずの状態です。25年前、佐須用水の貴重な環境に注目した私たちは、ゴミが大量に捨てられている用水路の清掃を兼ねた生き物観察会を始めました。最初の1、2年はトラック1台分位のゴミを回収したこともありましたが、いまではその10分の1くらいまで減っています。それでも、毎年ゴミが回収される状況が続いています。昔は、用水で洗い物などを行っていることもあり、ゴミを捨てるようなことはなかったと思いますが、今では、用水に依存することがない人が多く住むようになって、その大切さが意識されていません。私たちの活動で、用水の貴重さが理解されることを期待しています。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

4月23日(日)(13:00~16:00)用水路清掃、生き物観察会

- 内容： 野草観察会、用水路清掃、生き物観察会
場所： 佐須用水、田んぼ
持ち物その他： 作業着、軍手、用水路に入ることのできる靴（サンダルは不可）
子供の着替え（水につかってしまうことがあります）
昼食、種籾

用水路清掃

私たちの田んぼは、カニ山奥の谷戸から湧き出る水を利用しています。このように水を地域の人たちと共同で利用する場合、利用する人たちが集まって組合を作り、共同で管理することが大昔から行われてきました。「田んぼの学校」でも利用させていただき感謝の意味を込めて、また、そこに生きる生き物たちが棲みやすいようにと清掃活動を続けてきました。



用水路生き物観察会

用水路清掃にあわせて行われるのが用水路の生き物観察会です。田んぼに水を供給してくれる用水は、同時に、多くの水生生物の恵みにもなっています。湧水は元は直接飲料水に使えるほどきれいなものですが、多くの人が周りに住むようになり、その影響を受け、次第に飲料水としては使えなくなりました。（今でも沸騰させれば飲めます）用水路の生き物を観察することは、水の汚れ具合を知る指標にもなります。そこに生きている生き物が、この水の安全性を証明してくれているわけです。

田んぼからのおたより2017

第4号 2017年5月14日発行

みなさん、お元気ですか。私たちの田んぼの最大の問題は水です。調布市は私たちの田んぼがある深大寺・佐須地域について里山の風景を残すために都市農業を応援する事業を実施しました。その中に、佐須用水の流量確保のための事業があり、井戸が掘られて、水が少ない場合に井戸からくみ上げることが出来るようになりました。田んぼを続けるために長年の、最大の懸案が解決し、一安心です。

柏野小学校裏の田んぼに、今年は草が生えていました。道を挟んで北側の田んぼは草が生えていません。その東側のホテル園コーポ前の田んぼは毎年草がいっぱいです。私たちの田んぼも草でいっぱいでした。草が生えないということは、そこには草の種がまったくといっていいほどないということを意味しています。それでも草の種は飛んできたり、動物が運んだりして芽を出し、成長して、やがて種を落としますが、その前に草を取ることで次の世代を作らなければ草のない畑になります。除草剤の助けがなければ、大変な仕事です。雑草が全く生えない田んぼはちょっと気になります。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。



5月7日の田んぼ

苗の様子



5月14日（日）10：00～12：00 の学習

内容 ◎堆肥入れ◎畦草刈り◎畑草取り◎荒起こし◎くろつけ準備

場所「田んぼ」

堆肥入れ

堆肥置き場から堆肥を田んぼに運び漉き込みます。堆肥としてはできるだけ十分に発酵したものを使いますが、そうでなくても、土の中で更に分解されて肥料となります。

1. 堆肥をリヤカーで4, 5杯分田んぼに運んできます。
2. 堆肥を田んぼ一面にまんべんなく撒きます。
3. 小枝などの硬いものは分解されにくいので取り除きます。

畑と畦の草刈り

くろつけを行うために、畦の草を刈り取ります。畑の草取りも一緒に行います。

荒起こし

田んぼ全体を耕運機で荒く耕し、堆肥を土に漉き込みます。

くろつけ準備

畦の整理（昨年くろつけで盛った土を削ったり、崩れている部分を補修）を行ない、畦にそって水路の水を引き込み、くろつけの準備をします。

田んぼからのおたより2017

第5号 2017年6月4日発行

みなさん、お元気ですか。

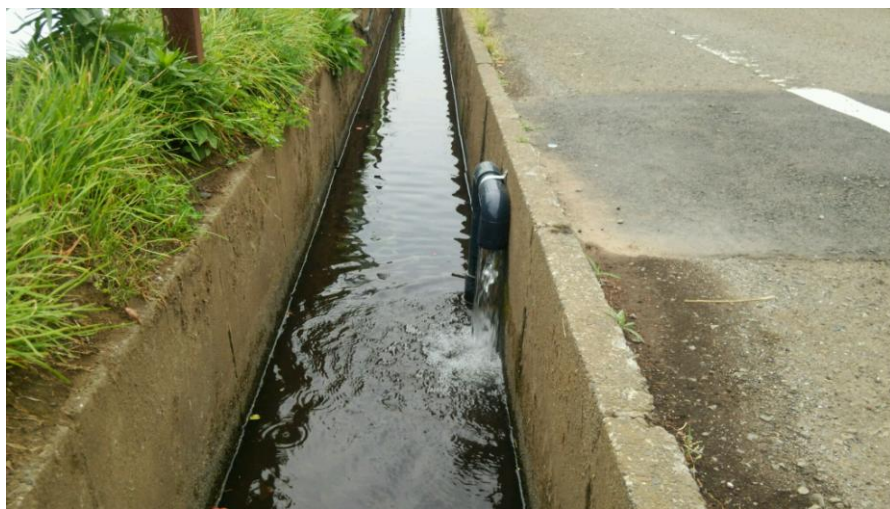
田植えの時期に気になるのが、用水の量です。一昨年、調布市は、佐須・深大寺地域の風景を維持するための事業の中で田んぼの水を確保するために井戸を掘りました。今年は5月の降雨量が例年の40%ほどだそうです、久々に、水不足の可能性が出てきましたが、万一水が足りない事態になっても、その井戸水でしろかき、田植えが出来そうです。

個人的なことになりますが、田んぼをはじめから生活の中で一番変わったことが、雨を単純に毛嫌いすることがなくなったことです。それまでは、雨になると外出が億劫になったりしたのですが、結構雨を楽しめるように変わったのです。現金なものですが、雨が大切な作物の生育に欠かせないものであり、生き物にとってなくてはならない水を供給する循環の一翼を担っている点で改めてその機能を見直したいです。

みなさんも、雨を見直してみませんか、そして楽しんでみませんか？

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

井戸の水です。



6月4日（日）（10：00～14：00）の学習

内容「くろつけ」 場所「田んぼ」

服装 どんこになってもいい服装にしてください。子供は着替えを持ってきてください。

足で泥をこねたりしますので、長靴ではできません。基本的には裸足、地下足袋、靴下でやります。

持ち物 タオル、着替え、昼食

くろつけ

－「くろ」とは畦（あぜ）のことです。「くろつけ」は畦から水が漏れないようにするための作業です。泥をこねて、畦に泥を塗りつけて、表面を滑らかにします。土だけではたくさんの小さな穴が空いているので、水が漏れてしまいます。土を泥状にすることで、土の粒の間のすきまがなくなり、水が漏れにくくなります。写真はくろつけの様子です。

1. 畦にそって引き込まれた水と田んぼの土をまぜて泥をこねる。泥は畦の天上部と内側に壁塗りをするように塗り付けるのにちょうどよい硬さにするのが早く仕上げるコツである。
2. くろつけは水の引き入れ口からみて一番奥の部分から仕上げていく。
3. くろつけが終わったら、畦が乾かないように水路をつけて水を引き込んでおく。
4. 田んぼの内部にも水が入るように水路をつける。
5. 水路に水がなくならないように引き入れ口を調節する。



田んぼからのおたより2017

第6号 2017年6月10日発行

みなさん、お元気ですか。いよいよ田植えです。今年は5月の雨量が例年より少なく野川の水量も乏しくなっています。くろつけのとき、すでに本流の水がほとんどなくなるような状態なので、井戸の水が必要になるかもしれません。

これまでも、いづどか水不足はありましたが、ほとんど何とか耐えました。水争いは昔から命がけのものだったようです。「我田引水」という言葉がありますが、他人のことを考えず、自分に都合が良いように考えたり、ものごとを行ったりすることという意味があります。このような言葉が残って使われるほど、他の田んぼのことを考えずに自分の田んぼにだけ水を引くことが実際にあったということでしょう。農業用水のほとんどは、上流から順に取水されるため、下流の農家は不利になります。お米が年貢として納められていたことを考えると、仕方がないことのようにも思えますが、いかがでしょうか。

今週の土曜日には、しろかき、日曜日には田植えを行います。すでに関東は梅雨入りということですが、土曜日、日曜日の天気予報は晴れのち曇りと曇りです。梅雨の合間の有難い晴れとなりそうです。

今年のくろつけ



昨年の苗取りの様子



6月10日(土)(10:00~15:00)の学習

内容「しろかき」「苗取り」 **場所**「田んぼ」 **服装**「かなり汚れてもいい作業着」
足元「はだしか地下足袋、またはくつした」 **持ち物** 子供の着替え、タオル、昼食、水筒

しろかき

田んぼに水を引き、土と混ぜて、どろどろ状態にし、平らにして田植えの準備をすることを言います。大半に作業は耕耘機でやりますが、平らにならすのは人でなければできない仕事で、けっこう重労働です。

苗取り

苗床から元気に育った苗を取ります。乾いた土の状態ですと方法と、水を引いて土を洗いながらとる方法があります。今回はしろかきと同時なので水を引いて苗を取ります。

苗はもち米とうるち米と混ざらないように、もち米を取ってから、うるちを取ります。取った苗は、一握りの大きさにして稲藁で結わえ、コンテナに入れて、水路につけておきます。

6月11日(日)(10:00~12:00)の学習

内容「田植え」 **場所**「田んぼ」 **服装**「かなり汚れてもいい作業着」
足元「はだしか地下足袋、またはくつした」 **持ち物** 子供の着替え、タオル、水筒

田植え

お米の苗をしろかきの終わった田んぼに植え付けます。田んぼの南側から植え付けていきます。最初にもち米(全体の約半分)、次にうるち米を植え付けます。

1. 25cm間隔で目印のついた紐を用意して、東西方向に張る。(両端を人が持つ)
2. 苗を植える人は一握りの苗を持って、紐の北側に南を向いて適当な間隔で並びます。
3. 一度に植える苗は2、3本くらいで、大きな苗を植えるようにします。
4. 合図があったら、自分の持ち分に植え付ける。植え付ける場所は、紐の手前側に、目印のあるところ。
5. 自分の分が終わったら、一步下がって、これから植え付けるところを手でならす。
6. 全員が終わったら、紐を25cm北側に移動する。
7. 以上を繰り返していく。

田んぼからのおたより2017

第7号 2017年7月09日発行

みなさん、お元気ですか。

今年は久しぶりの水不足ですが、なんとかしろかきもでき、田植えも何とか無事終わることができました。水不足は解消していませんが、涸れることなく稲も順調に育っています。この何年かで一大勢力となったコナギもすでに芽を出しています。今年も、これを徹底的に取るつもりです。

さて、田んぼの生き物たちはどうなっているのでしょうか。すでにホウネンエビ、アマガエルのオタマジャクシが泳いでいます。いつものようにたくさんの生き物がいるといいですね。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。



田植えの様子



花をつけたコナギ

7月9日（日）（10：00～12：00）の学習

内容「畑の草取り」「草取り、根搔き」「畦草刈り」「生き物観察」

場所「田んぼ」

服装 普通に作業のできる服装でてください。草取り、根搔きは田んぼの様子を見てやります。畑の草取りも行いますので、長袖、長ズボンをお願いします。

持ち物 タオル、軍手、蚊取り線香（携帯用）、飲み物

草取り（一番草）

この時期に行う草取りを一番草といいます。私たちの田んぼは、これまであまり草取りの必要がありませんでしたが、だいぶ目立つようになりました。生き物観察の後、草取りをします。

根搔き

根搔きと言う作業は、稲の根の回りの泥をかき回して空気を送ったり、根を切ることで、根の生育を促進する目的があります。昔は、草取りと根搔きを両方を行う道具がありました。

根搔きの作業も私たちの田んぼでは、やっていません。根搔きはやったほうが良いという意見と、必要がないという意見があり、必ずしもどちらが良いとは言いきれないようです。

生き物観察

田んぼに水が入ると、田んぼには劇的な変化が現れます。その様子を観察します。

田んぼからのおたより2017

第8号 2017年8月25日発行

みなさん、お元気ですか。毎年、同じように田植えをしていますが、田んぼの生き物をみると、なかなか同じようにならないというのが実感です。例年今頃は、アマガエルのオタマジャクシがカエルになるころですが、まだ見当たりません。

今年も、例年のように、用水路と田んぼの一体化による水管理をしています。水路の堰とセリの畑と田んぼの水面がほぼ一致していて、基本的に水中の生物が行き来できる状態になっています。そのため、堰が外れると水が全部水路に流れてしまう欠点もあります。この何年かは問題なかったのですが、今年は、残念ながら堰が外されて一度水がなくなり、セリ畑の生き物がだいぶ死んでしまいました。

田んぼはプランクトンが豊富で魚類、両生類、水生昆虫などにとって、餌に不自由しない場所となっています。昔の田んぼは大体そのようになっていたはずですが。殺虫剤や農薬、化学肥料などが使われるようになって、それらが用水路に流出することが問題となったので、田んぼの水を水路に戻すことをやめてしまいました。佐須の田んぼも用水路の整備を行った時点で田んぼに引き込んだ水は地中に浸透させるか、下水に流すようになっていきます。私たちの田んぼは基本的に水路の水を汚すことがないため、一体化を考えていました。

7月27日の田んぼ



柏野夏祭り

「田んぼの学校」では、地域の方々との交流を積極的に行うため、毎年柏野小学校で行われる地域の夏祭り「柏野夏祭り」に模擬店「焼鳥屋」で参加しています。今年の日程は以下の通りです。

8月25日(金)	9:00から12:00	会場設営
8月25日(金)	16:30から20:00	夏祭り
8月26日(土)	16:30から20:00	夏祭り
8月27日(日)	9:00から12:00	片づけ

夏祭りへの参加はボランティアで、自由参加ですが、焼き鳥を焼く体験は大変楽しく、また貴重(他ではできない体験)です。当会の貴重な運営資金を作る場でもあり、是非参加してください。特に金曜日はスタッフが足りません。奮って参加を。夏祭りの子ども向け模擬店もゲーム、綿飴、かき氷など盛りだくさんで、

子どもになかなかの評判です。参加の希望は、

別に送信する連絡メールにて**8月12日まで**に返信ください。参加の時間帯も自由です。

参加枠	日付	時間帯	内容	備考
A	8月25日(金)	9:00~12:00	設営	人手不足です
B	8月25日(金)	13:00~16:00	仕込み	人手不足です
C	8月25日(金)	16:00~18:00	焼き、販売	人手不足です
D	8月25日(金)	18:00~20:00	焼き、販売	人手不足です
E	8月26日(土)	13:00~16:00	仕込み	
F	8月26日(土)	16:00~18:00	焼き、販売	
G	8月26日(土)	18:00~20:00	焼き、販売	
H	8月27日(日)	9:00~12:00	片付け	

つまみ、お酒の差し入れ大歓迎です。詳しいことは、電話でお尋ねください。

田んぼからのおたより2017

第9号 2017年9月10日発行

みなさん、お元気ですか。今年の夏は梅雨時にまったく雨が降らず、梅雨明けには晴れ間がないという困った天気になりました。8月に入ってからの日照不足は収穫に大きな影響がありそうです。

柏野小学校の夏祭りは8月25日、26日に無事開催され、準備した5,000本のうち、金曜日約2,400本、土曜日約2,600本を売上げ、両日完売となりました。お手伝いいただいた皆様に、改めて御礼申し上げます。

さて、8年前スズメ被害が拡大し、収穫が減るという大変な事態になりました。その後、毎年スズメの被害を防止するため、網をかけています。今年はちょっと遅れましたが、27日に防鳥網を張りました。

「スズメ対策」の定番といえば、案山子（かかし）です。大いに工夫してスズメの恐がる案山子を作ってください。光ったり、音が出たりするものがあるといいかな？ ことしも創造性豊かな案山子を期待しています。

作る場所については、田んぼの付近ではスペースが取れないため、佐須児童館の敷地を借りて実施することとなりましたので、ご注意ください。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。



9月3日の田んぼです。

9月10日(日)(12:00~15:00)の学習

内容 「カカシ作り」

場所 佐須児童館奥の空き地(佐須ふれあいの家前)

持参するもの 案山子の材料(垂木以外のもの)、大工道具

田んぼの観察

田んぼの生き物観察については、今回は各自行くこととします。この時期、どんな生き物がいるか、じっくり観察してください。

カカシ(案山子)作り

芸術の秋とも言います。調布のすずめは少し賢いので、みなさんの創意工夫をおおいに期待しています。芸術性を追求するか、実用本位でいくか家族会議で検討してください。一家族で案山子一体作っていただきます。骨格となる部分の垂木は事務局で用意します。案山子に着せる服や、飾り付けなどの材料や大工道具は持参してください。



8年前のスズメに食べられた様子

田んぼからのおたより2017

第10号 2017年10月15日発行

みなさん、お元気ですか。いよいよ稲刈りです。4月23日に種まきをしてから6ヶ月弱、6月11日に田植えをしてから4ヶ月弱、今年は7月中にほとんど雨が降らずに好天が続き、8月は一転して、曇りばかりで日照不足が心配される波乱の半年になりました。日照不足をちょっと考慮して予定を1週間ずらしました。



9月10日の田んぼと案山子



調布産の、自分たちの新米を食べるのが今から楽しみです。うるち米は「キヌヒカリ」という品種です。有名なコシヒカリの遺伝子を受け継いでいる品種です。もち米はマンゲツモチという品種です。



はぜかけされた稲

刈り取った稲は「はぜかけ」をします。2週間くらいで稲は乾燥し、脱穀できるようになります。十分に乾燥していないと脱穀した粃が発酵してしまうことがあるようです。

はぜかけ(はさかけともいう)の「はさ(稲架)」は刈り取った稲をかけて干すしくみのことです。日本全国にいろいろな形があります。田んぼの畦に木がある光景を見たことが

ありますか。

あれは、はさかけのために植えられたはんのき（榛の木）です。（カバノキ科の落葉高木。山野の湿地に自生。幹は直立し、15メートルに達する。）湿地に直立してくれるということは、はさの心棒にはもってこいですね。

稲刈りは、刈り取り用のカマを使います。カマの扱いには、十分気をつけてください。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

10月15日（日）（10：00～14：00）の学習

内容「ハザ掛け準備、稲刈り」 場所「田んぼ」

服装 長袖、長ズボンの作業着、軍手

持ち物 昼食、飲み物

ハザ掛け準備

はざは、1段掛けのものを南北に4列田んぼ内に設置します。

1. 最初にはざの足場用の場所（6箇所）の稲刈りを最初に行います。
2. 足場用の垂木3本を1組にして荒縄で組んで3脚にしたものを、合計12組作ります。
3. 1列につき、3組の足場を並べます。
4. 10m前後の竹竿を3本くらい束ねて丈夫な1本の竿にして、足場の上に固定します。
5. 必要に応じて、竿を補強してください。

稲刈り

午前はうるち米、午後はもち米の刈り取りをします。

1. 稲株を左手で握り、右手の鎌で根元から刈ります。
2. 刈り取った稲は1握り分づつを根元をクロスさせて2握りを1組しておいていきます。
3. クロスしておかれた稲の束を濡らした稲わら3、4本で根元を結わえます。
4. 結わえられた稲束をクロスしたところで左右に振り分けてはさに掛けていきます。
5. はさかけの周りに鳥除けの網を張ります。

田んぼからのおたより2017

第11号 2017年11月12日発行

みなさん、お元気ですか。今年は台風の影響なのか秋雨前線による天候不順が例年になく長引き、稲刈りができずに、予定が大幅に遅れてしまいました。さらには、最後の稲刈り予定の日も雨予報となり、土曜日に繰り上げざるを得ませんでした。稲刈り後は台風にちょっとビニールをはがされることがありましたが、順調に乾燥ができました。2週間も乾燥させると稲わらの水分もなくなりずいぶんと軽くなります。

脱穀とは、稲から粃を分離させることです。大昔は千把扱き（せんばこき）というもので脱穀していました。鉄片を櫛の歯のように並べ、それへ稲穂をひっかけて、粃（もみ）をしごき落とします。約300年前の元禄年間（1688-1704）に考案されたようですが、いまでも農家の納屋にこれが残っていることがあり、昭和のはじめ頃までは使っていたのではないかと思います。

当会には、足踏み脱穀機（ミノル式）がありましたが、これは、1910年（明治43年）の発明といわれています。千把扱きに比べ8倍の能力があるそうです。脱穀機で落とした粃と藁くずを分別する機械が唐箕（とうみ）です。唐箕の前は、風を利用して箕に入れた粃と藁くずを振って分別していました。脱穀している時は、ほこりがたくさん出ます。ぼうしとマスクを用意してください。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

ハザ掛け（11月8日）



11月12日(日)(10:00~12:00)の学習

内容「脱穀」、場所「田んぼ」

服装「作業着、ぼうし、マスク」

脱穀(だっこく)

稲穂から粃を取ることを脱穀といいます。粃の状態は種と同じで、長期保存する場合は粃の状態で行います。次の年の種にするものは特に種粃といいます。

縄文時代前期(6000年前)には日本で稲作がおこなわれていた遺跡(陸稲米)が見つかっており、弥生時代中期には北海道以外の日本全国で稲作(水稲)がおこなわれるようになったようです。その頃の脱穀はおそらく手か石器でしごき取っていたと思われます。

脱穀は、組合所有の脱穀機を使います。ガソリンエンジンで自走でき、あっという間に脱穀は終わります。

写真は自走式脱穀機



田んぼからのおたより2017

第12号 2017年11月19日発行

みなさん、お元気ですか。今週は、籾摺りと精米です。籾摺りは籾の外皮を取り除く作業です。江戸時代には土臼などが使われたようですが、現在はゴムロール式と衝撃式といういずれもゴムを使ったものになっています。一昨年、これまでの籾摺り機が壊れてしまったので、籾摺りと精米が両方兼用の中古の籾摺り精米機を購入しました。

籾摺りによって籾殻(外皮)がとれた米を「玄米」といいます。最近、この「玄米」を食べる人が増えてきました。これは、普通みなさんが食べている「白米」にくらべてビタミンB群、E、リノール酸、ミネラルなどの栄養価の高い成分が多く含まれていることや、便秘に効くということがあるためです。ただ、炊き方がややめんどろです。それでも、最近の炊飯器は優れたものが多いです。玄米も柔らかく炊けます。

「玄米」と「白米」の中間に「胚芽米(はいがまい)」、「発芽玄米」というのがあります。以前から「白米」を10分として、ぬか部分の削り具合によって3分・5分・7分搗きというお米がありました。「胚芽米」は特に重要な「胚芽」(発芽する部分)を残すようにしたものを言うようです。「玄米」の表面には消化されにくい米ぬか層があり、「胚芽」を含めてこれを全部削り取ったものが「白米」になるわけです。「胚芽米」にもその削り加減で3分・5分・7分搗きなどがあります。「胚芽米」は米ぬかに含まれている前記の栄養があるうえ、「白米」と同じ様に炊くことが出来、消化吸収もいいということで、人気があるようです。

「発芽胚芽米」というのを聞いたことがありますか。「胚芽米」を研いだ後、40度くらいのぬるま湯に2時間ほどつけると、胚芽部分が膨らみます。詳しいことはわかりませんが、ぬるま湯につけることで発芽が進むようです。その後、普通に炊くと出来上がります。「胚芽米」と「発芽胚芽米」のどちらがおいしいか、どちらがより栄養価が高いかはよくわかりません。

最近、金芽米というお米が出回るようになりました。胚芽米よりの栄養価を残し、白米のおいしさを持つと言われます。日本のこの飽くなき探究心と技術にはほんとに感心します。皆さんもネットでおいしいお米を探してみて、ぜひ食べて、結果を教えてください。みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

脱穀機による脱穀



11月19日（日）（10：00～12：00）の学習

内容「籾摺り」、「精米」 場所「田んぼ」

今回の学習は、作業がありません。籾摺りと精米の原理を説明し、籾摺り精米機の作業を見学していただきます。

籾摺り

脱穀で稲わらから取った稲の実を籾といいます。籾は種の状態、外皮に守られていますので、長期に保存が出来ます。籾から外皮(籾殻)を取り除いて「玄米」にする作業が籾摺りです。この言葉は文字どおり籾を擦りあわせることが語源になっています。籾殻は結構頑丈に出来ていて、つめを立てないと取れません。どうすればこの外皮をうまくとれるのでしょうか？みなさん、考えてみてください。持ってくる事ができる方はすり鉢とゴムの野球ボールをお持ちください。答えは田んぼで。

精米

籾摺りが終わった状態のお米が玄米と呼ばれます。玄米から胚芽米や白米にすることを「精米」といいます。もち米はぬかを全部取り、「白米」にします。うるち米はほぼ玄米にちかい状態を目標に精米します。籾摺り機と精米機は同じ物です。玄米を精米機にかけるだけなので、見学となります。時間内にお越しくください。

田んぼからのおたより2017

第13号 2017年11月23日発行

みなさん、お元気ですか。稲刈り、脱穀も終了、粃摺り、精米も終わりました。いよいよ収穫祭です。

さて、私たちの作ったうるち米は関東で比較的多く栽培されている「きぬひかり」という銘柄です。茨城県では奨励品種になっています。コシヒカリの血統を受け継ぎ、炊きあがりの絹のような色つや、そして食味も好評ということです。お米の味は、新米の精米直後がよりおいしく味わえます。また、炊き方によっても味が変わってくるので、おいしく食べるには細心の注意を払ってください。おいしく炊くコツの一つはお米を研いだ後の「浸けおき」です。20度の水温の水で1時間つけると最適です。何かと忙しいおりですが、段取りを付けて、1時間浸けおきをやってみてください。

収穫祭のお知らせ

収穫祭は、作物の収穫を祝って行うお祭りです。毎年11月23日の勤労感謝の日に行ってききましたが、それなりに意味があります。この日は、「新嘗祭（にいなめさい）」が行われている日に当たります。「新嘗祭」は「しんじょうさい」ともいい、「新」は新穀を「嘗」はご馳走を意味します。毎年この日に全国の神社で行われ、新穀を得たことを神さまに感謝する新嘗祭は、五穀の豊穰を祈願した2月17日の祈年祭と相對する関係にあるお祭りです。新嘗祭の起源は古く、『古事記』にも天照大御神が新嘗祭を行ったことが記されています。私たちの会では、収穫をもたらしてくれたすべてのものに感謝の気持ちを表すために収穫祭を行っています。出来るだけたくさんの人とお祝いしたいと思いますので、お友達などお誘い合わせの上、おいで頂きたいと思っております。お祝い事ですので、お酒やおつまみなどの持ち込みは大歓迎です。

つきたてのお餅を食べるときの具（おろし醤油、納豆、きな粉、あんこなど）をいろいろ用意しておりますが、ご自分の田舎で食べる具でこれはぜひというのがありましたら、みなさんにご披露してください。なお、お年寄りの方（70歳以上）、幼児は無料で参加いただけます。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。



11月23日(木)(9:00~15:00)の学習

内容「収穫祭」 場所「田んぼ」

持ち物 お椀、お皿、はし、飲み物、包丁、まな板

会費 会員 大人(中学生以上)400円、子供(小学生)200円(食材費に当てます)

非会員 大人(中学生以上)600円、子供(小学生)300円

高齢者、幼児は無料

酒代(お酒を飲む人)

その他 23日が雨の場合、11月26日(日)に延期します。

収穫祭

田んぼで取れたもち米(約20Kg)で餅つきを行います。最初の一臼は一年の感謝を込めて、竹内さんに献上します。二臼目からはいろいろな具といっしょに皆さんで味わっていただきます。お餅の他には豚汁、焼き物(干物、焼き芋など)、小宮山さんの野趣あふれる料理を用意する予定です。

参考までに餅つきの簡単な手順を説明します。

餅つきの手順

1. もち米の浸けおき

もち米は前日に研いで、水に浸けておきます。

2. 湯沸かし

蒸し器用の湯とは別にお湯をたくさん沸かします。洗い物や、臼、杵を温めておいたりするために使います。

3. もち米を蒸す

浸けおきしたもち米はざるで水を切った後、蒸し器に1升(1臼分)ずついれて蒸します。お米の芯が残らないように十分に蒸します。

4. こねる

蒸しあがったもち米は手早く臼に入れ、米粒の形がなくなるまで、杵でこねてすりつぶします。これもできるだけ早くやります。

5. 搗く

十分にこねたら、搗き始めます。臼の中の餅は搗きやすいように相方が手で寄せます。搗き手と相方の呼吸が大事です。また、餅が熱いため、手に水を付けますが、つけすぎると水っぽくなるので、注意が必要です。

搗いた杵がもちから反発力を感じるようになれば搗き上がりです。

6. 粉にまぶす

搗きあがった餅はそのままでは何にでもくっつくので、のし台で米粉や片栗粉でまぶします。

追伸

今年も、とれたお米を希望する方に1Kg400円で販売します。23日に一家族あたりうるち米(白米)1Kg、もち米0.5Kg販売します。

田んぼからのおたより2017

第14号 2017年12月3日発行

みなさん、お元気ですか。今回はカニ山でキャンプをします。カニ山は、田んぼの用水が湧き出ている谷の雑木林で、昔、たくさんの湧き水があって、沢ガニがたくさんいたのでこの名前が付いたようです。コナラ、クヌギといった武蔵野の雑木林を今も残しているところです。雑木林は、堆肥にする落ち葉や薪にするシバ、炭や薪にする材木を取るために、人が入って管理していた自然（二次自然ともいう）の森です。そのため、切り株からまた枝をのぼして大きくなる（萌芽更新という）コナラやクヌギの仲間が残され、木の背丈も10m位に維持されていました。ちょうど薪にしたり、炭焼きにするのにいい太さで切られるためにいつもそのくらいになるわけです。現在、都会にある自然を残すために、雑木林が残されることがありますが、その多くは、人間が手を入れないため、コナラ、クヌギなどが大きくなりすぎて、昔の「武蔵野の雑木林」の面影を残してはいません。カニ山も残念ながら、木が大きくなり過ぎ、人もたくさんはいるので、地面が固くなっています。本来の雑木林は、その地面にたくさんの水を含んで貯める保水機能も持っていて、湧き水が枯れない要因にもなっています。

調布市は、私たちの田んぼのある佐須地区において雑木林、畑、田んぼを保全する計画を実施することとなり、里山の保全に一步前進しました。

右の写真は収穫祭



炭焼きキャンプの出欠連絡

準備の都合上、事前に出欠の連絡をお願い致します。[11月30日夜までにメール](#)でお名前、大人の人数、小学生の人数、幼児の人数を返信して下さい。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

12月3日(日) 9:00~15:00)の学習

内容 炭焼きキャンプ 場所 カニ山

持ち物 食器(はし、皿、茶碗、お椀、コップ)、調理器(包丁)、着替え、おやつ(飲み物はこちらで用意します)、空き缶(鉄板でできた茶筒やせんべいの箱などで、しっかりふたができるもの。炭焼きに使います)、炭材(炭にしたいもの。マツボックリ、ドングリ、栗、割り箸、花など)、差し入れ(自由です。おやつや酒の肴など歓迎)、お米(幼児を含む参加者一人1合)
(はチェックのためにお使いください。)

参加費 大人(中学生以上) 700円、小学生 400円、幼児 無料

その他 駐車場がないので、車での参加はご遠慮下さい。雨天の場合は中止(連絡網にて通知)とします。

スケジュール

9:00	集合	カニ山キャンプ場(かまどがあるところ)。 時間厳守
9:30	授業	火起こし(たき火の火付けの学習)、炭焼き
10:00	昼食準備	(父母)
12:00	昼食、懇談	カレー、その他小宮山氏のオリジナルメニュー(乞うご期待)
13:00	授業	しめ縄作り
15:00	片付け、解散	

田んぼからのおたより2017

第15号 2017年12月17日発行

みなさん、お元気ですか。関東の平野部や調布でも紅葉が見られましたが、あっという間に冬の到来です。早いものはすでに葉を散らしています。

土づくり

落ち葉などによる堆肥作りは農業に一番大切な「土づくり」にかかせない作業の一つです。「土づくり」のなかで一つの柱となるのが栄養分でしょう。肥えた土地、痩せた土地という時、栄養分が有るか無いかを示しています。これまで、25年間、無農薬、有機栽培を目標に、毎年田んぼに堆肥を入れてきました。堆肥の原料は、カニ山の落ち葉、収穫したお米を精米した時に取れる米ぬかなどです。堆肥を作る場所は竹内さんの堆肥置き場を共同で使わせていただいています。

落ち葉、米ぬかは、混ぜ合わせて寝かせます。寝かせた落ち葉は菌類などの働きにより発酵します。発酵が順調に進むように適当に天地返し作業をします。完全な有機栽培にはこのような「土づくり」が何より大切です。農業の基本は土づくりといってもいいくらいです。

雑木林

カニ山は、田んぼの用水が湧き出ている谷の雑木林で、昔、たくさんの湧き水があって、沢ガニがたくさんいたのでこの名前が付いたようです。コナラ、クヌギといった武蔵野の雑木林を今も残しているところ。雑木林は、堆肥にする落ち葉や薪にするシバ、炭や薪にする材木を取るために、人が入って管理していた自然（二次自然ともいう）の森です。そのため、切り株からまた枝をのぼして大きくなる（萌芽更新という）コナラやクヌギの仲間が残され、木の背丈も10m位に維持されてきました。ちょうど薪にしたり、炭焼きにするのにいい太さで切られるためにいつもそのくらいになるわけです。現在、都会にある自然を残すために、雑木林が残されることがありますが、その多くは、人間が手を入れないため、コナラ、クヌギなどが大きくなりすぎ



て、昔の「武蔵野の雑木林」の面影を残してはいません。カニ山も残念ながら、木が大きくなり過ぎ、人もたくさんはいるので、地面が固くなっています。本来の雑木林は、その地面にたくさんの水を含んで貯める保水機能も持っていて、湧き水が枯れない要因にもなっています。

炭焼きキャンプの様子

12月17日（日）10:00～12:00）の学習

内容 落ち葉拾い

場所 カニ山

持ち物 軍手、長靴

田んぼからのおたより2017

第16号 2018年1月13日発行

新年あけましておめでとうございます。田んぼの学校の授業もあと3回となりました。もう少しがんばりましょう。

今回の授業は佐須地域の行事「どんど焼き」体験と「土作り」としての落ち葉堆肥の天地返しです。

「どんど焼き」は、お正月の松飾りや門松、書初めなどを持ち寄り、集めて燃やします。その火にあたることで、一年間の無病息災がかなうといわれています。また、その熾火（おきび）でお餅や団子を焼いて食べることで風邪をひかないなどといわれています。いずれにしても昔から行われてきているこのような行事の謂われなどは多分に神様（昔からいたる所に神様が宿っていた）に対する感謝と願いが込められたものであることに違いはないように思われます。今回の授業では、実際にその行事を見学し、あらためてそのような行事が地域で長年にわたり続けられてきたのかということを考えていただければと思います。

右と下の写真はどんど焼き



もうひとつの授業が「土作り」です。作物を作る上で、土作りは大変重要な要素です。特に落ち葉、家畜の排泄物などからつくられる有機堆肥は農薬や化学肥料を使用しない有機農法には欠かせません。その昔、佐須でもカニ山の雑木林から落ち葉を拾い、堆肥づくりをしていたと思います。家畜も飼われていて、そのし尿なども発酵させた後堆肥に利用されていたはずですが。落ち葉は、毎年冬が来るたびに生まれますが、そのためには、雑木林が毎年同じように落ち葉が生まれるように手入れしていることが必要です。落ち葉を入手する雑木林では、常緑樹を伐採し、落

野川で遊ぶまちづくりの会

葉樹を維持するように手入れされてきました。同時に、コナラ等の落葉樹は若いうちに伐採して薪や炭に利用し、萌芽更新により実生（種＝どんぐり）から育つより短期間に有用に育てることも行われました。

薪や炭から出る灰までも利用していました。昭和の初めころまで、その様な持続可能な生活を私たちの祖先は維持してきたのです。

これらの先人の知恵を私たちも身をもって体験することが大切だと思っています。



左の写真は3 mほども積まれた落ち葉（7年前）

どんど焼き(佐須地域の行事参加)

1月13日(土)(11:00~13:00)の学習

内容「どんど焼き」体験 場所「田んぼ近く祇園寺前」

持ち物 箸と器（搗きたてのおもちが振る舞われます）、お正月飾り

かつて、農村の集落ではどこでも行われていたと思われるお正月の行事としてどんど焼き（地域によって呼び方が異なる）があります。佐須地域でも一時途絶えていたものを地域の青年会が復活して20年をこえる事業になっています。

土づくり

1月14日(日)(10:00~12:00)の学習

内容 堆肥づくり 場所「田んぼ」

服装など 作業ができる服装、長靴

堆肥集積地に積まれている落ち葉の天地返しをします。天地返しを繰り返すことで、落ち葉の発酵を促進することができます。

田んぼからのおたより2017

第17号 2018年2月4日発行

皆さんお元気ですか？ 2月の授業では、縄緬い（稲わらで縄を作ること）を学習します。冬の間お米作りをやっている農家では田んぼでの作業がないかわりに家の中で行う作業がありました。その代表的なものが縄緬いです。インターネットで探してみると地域特産物マイスター協議会・財団法人 日本特産農産物協会が発行する「地域特産物マイスター通信」という広報誌にこんな文章がありました。「百姓仕事にとって縄緬いは基本作業だった。結ぶにも、担うにも、運ぶにも、入れるにも、敷くにも、履くにも、そして保温にも、皆、縄が不可欠だ。目的に沿った稲藁の選択、湿り具合と打ち加減、縄緬いのワザとコツ、何処の軒先に立っても藁を打つ槌音とショリショリと繰り返されるリズムが聞こえた。右の掌と左の掌の巧妙なワザが緬う1本の藁縄には、時間（歴史）と空間（地域社会）が織り成す文化があった。」

2000年を超えるお米作りの伝統のなかに、農作業や普段の生活に欠かせない様々なものを提供したのが稲藁で作る縄であつたり、草履であつたり、米俵などでありました。お米作りを学んで一番驚いたことは、収穫されたお米だけでなく、籾殻、米ぬか、稲藁などその課程で生まれる副産物が一つも無駄になっていないことです。ここではいちいち書きませんが、ぜひ皆さんインターネットなどで探してどんなものがあるか調べてみてください。調べたら、是非皆さんに教えてください。

2月4日（日）（10：00～12：00）の学習

内容「堆肥天地返し」 場所：堆肥堆積所

履物は長靴をお勧めします。

雨の場合中止。

2月4日（日）（13：00～15：00）の学習

内容「縄緬い」 場所：佐須ふれあいの家

室内なので雨でもやります。藁草履作りに挑戦します。

午後も授業がありますので、お弁当をお持ちください。

縄緬い

稲刈りをし、脱穀した稲藁は、実は大変な貴重品になっています。皆さんは実際に稲刈りをしているので、その大変さがわかると思いますが、農家がつけている田んぼの広さは、私たちの田んぼ（3畝）の最低でも10倍から大きいところはおそらく数百倍で、とても手では刈り取りできる広さではありません。コンバインという機械で刈り取りしますが、稲藁がそのままではかさばるため、同時に粉々にしてしまいます。だから、稲藁もありません。そのため、稲藁は大変貴重なものになっています。

さて、縄緬いですが、いわゆる手仕事です。上手に、早く縄を作るとはなかなか大変です。でも、自分で作ることに大きな意味があります。そんなことが体験できればいいと思います。みなさん、お楽しみに。



佐須の田んぼが残る

私たちが調布市の佐須でお米づくりを始めて26年が経ちました。昨年度は、私たちにとって記念すべき節目の年になりました。調布市が、長年の懸案であった、佐須にある田んぼを残すことができる「深大寺・佐須地域環境資源保全・活用基本計画」を策定、当会が切望していた田んぼの保全が現実となったからです。そして、今年度、調布市による田んぼがあった農地の取得が実現しました。2032年度の本番活用に向けて、暫定活用などで活用方法などを検討することになります。当会にとっては一歩前進ですが、これからは市民の力の見せ所です。

米作りで思う事

お米作りを始めて、いろいろなことを学ぶことができ、人が生きるということがどうゆうことなのかをあらためて考える機会となりました。ほとんどの生き物は、命を授かって、体外から生きるために必要なものを取り込んで成長し、それぞれの寿命を迎えて、分解されて自然に還ります。人もサルから進化しながら、何万年という時を経て、今の自分たちがいます。お米も、約1万年前の中国長江流域の湖南省あたりを起源として、3千年前ころには日本に伝来し、急速に広まったとされています。弥生時代と重なる時代で、かつては弥生式土器の発見で弥生時代とされていたものが、水田による稲作の農耕の広まりが弥生時代というようになったようです。今年私たちが作った稲も一万年前に始まった稲にそのルーツがあり、つながっていることに生き物の不思議を感じないわけにはいきません。植物である稲も、種が発芽の条件が満たされると、芽を出し、根を張り、葉を広げ、成長します。稲は、根から様々なものを取り込み、葉に太陽光を受けて、成長して、花をつけ、雄しべは花粉を散らし、雌しべが花粉を受粉して米粒となる次世代に命をつなぐ種ができます。今のお米は、一粒の種から500粒くらい収穫できるようです。

あらためて思うことは、地球にとって太陽が太古のころから人間のみならずすべての生き物の“元”になっているということです。日本には四季があり、それぞれの地域で太陽の恵みを最大限に利用して作物をつくり、営々と日々を紡いできたことを再認識するこの一年ではなかったでしょうか。

地球規模で起こっているさまざまな環境問題を解決するためには、グローバルな視点とローカルな視点での取り組みが必要です。「田んぼの学校」では、そのローカルな取り組みとして身近な環境である「田んぼ」のある環境を守ることを重要な目的にしています。

「田んぼ」には環境問題を解決するヒントがたくさんあります。「田んぼ」の米作りをとおしてそのいくつかでも気がついていただければと考えています。みなさん、この一年でいくつくらい気がついていきますか？

宿題

今回の学習には、宿題があります。忘れずに持ってきてください。

宿題は、この12ヶ月間に田んぼで学んだことの感想文（長さは自由です。）です。この一年、参加した授業をもう一度、家族で振り返ってみてください。おとうさんも、おかあさんも、こどもたちもみんな書いてください。（書けない子どもは、おとうさん、おかあさんが代筆してください。）卒業式に読み上げていただきます。

卒業式欠席の場合も3月9日までに宿題は提出（メールなど）してください。

出欠席の確認

卒業式の出欠席を3月8日(木)までに尾辻までメールして下さい。

.....

3月11日（日）（13:00～16:00）の学習

内容「卒業式」 場所「調布市市民プラザ あくろす あくろすホール」

持ち物 お昼のおかず（参加される家族の人数分より少し多めにお持ちください。）

飲み物（御茶など）取り皿（一人2枚）、はし、カップ

（田んぼで取れたお米でお赤飯、おにぎりを用意します。ジュースなども事務局で用意します。）

出欠確認のメールをお送りしますので、そのメールに返信してください。3月8日まで必着。

5. 参加者名簿

名前	コース	住所
松元	基礎コース	調布市布田
高橋	親子コース	調布市染地
遠藤	親子コース	狛江市中和泉
榎本	親子コース	調布市佐須町
高橋	親子コース	調布市染地
三橋	親子コース	調布市深大寺南町
三井	親子コース	東京都狛江市西野川
池上	親子コース	調布市多摩川
曾根	親子コース	調布市西つつじヶ丘
前田	親子コース	調布市佐須町
西村	親子コース	調布市深大寺北町
小川	親子コース	調布市佐須町
小栗	親子コース	狛江市中和泉
六田	親子コース	調布市深大寺東町
辺見	親子コース	狛江市西野川
渡部	親子コース	調布市上石原
廣岡	親子コース	狛江市元和泉
鈴木	親子コース	調布市 柴崎
君嶋	親子コース	調布市東つつじヶ丘
遠藤	親子コース	調布市若葉町
飯村	親子コース	調布市深大寺南町
黒木	親子コース	調布市柴崎
佐藤	親子コース	調布市柴崎
林	親子コース	調布市国領町
長岡	親子コース	調布市富士見町
高橋	親子コース	調布市佐須町
西山	親子コース	狛江市西野川
増川	親子コース	狛江市和泉本町
宮田	親子コース	調布市深大寺南町
寺澤	親子コース	調布市西つつじヶ丘
高倉	親子コース	府中市浅間町
中島	親子コース	狛江市西野川
萩谷	親子コース	狛江市中和泉
村田	親子コース	調布市若葉町
河野	親子コース	府中市押立町

時安	親子コース	狛江市中和泉
田原	親子コース	調布市国領町
水野	親子コース	調布市西つつじヶ丘
沼田	親子コース	調布市多摩川
岩崎	親子コース	調布市富士見町
金入	親子コース	調布市柴崎
渡邊	親子コース	調布市国領町
今江	スタッフ	狛江市東和泉
入山	スタッフ	調布市布田
忍足	スタッフ	調布市東つつじヶ丘
尾辻	スタッフ	調布市八雲台
尾辻	スタッフ	調布市八雲台
鬼弦	スタッフ	調布市飛田給
小宮山	スタッフ	調布市深大寺東町
堀内	スタッフ	稲城市矢野口
松本	スタッフ	調布市富士見町
藤川	スタッフ	調布市布田
四方田	スタッフ	北斗市

6. 参加者感想文集

遠藤江里香（えりか）

田んぼで頂いたお米を炊いた日、子供達の「おいしい」の声が何度も繰り返されました。今の時代は美味しいもので満ちあふれていますが、あんなに美味しそうに食べることは、なかなかありません。そういう私も大変美味しく、愛おしく頂きました。収穫祭のお餅の美味しさも格別でした。

畑と違って、お米作りはどこでもできるものではなく、また田んぼを作り維持するのは大変。月に数回ちょこっとしかお手伝いをしませんでしたでしたが分かりました。

田んぼに生きる生き物や植生を学べたのも楽しかったです。都市化により昆虫よる受粉が期待できない植物が増えている。よって美しい花を咲かせる植物が街中から消えていく、というお話が印象深かったです。

一年間ありがとうございました。

遠藤たかと（小3）

田んぼでお米を作るときに、いろいろすることがあって、とくに田植えが大変だと思いました。理由は、どろに足がはまって、歩くのが大変だからです。田んぼでお米を作っている人は

とても大変で、毎日いねの世話をしているから、すごいなと思いました。

遠藤はるき（小1）

いねかりが、一ばんのおもいです。いねをたくさんかりました。からだはつらかったけど、たのしかったです。

君嶋幸太郎

「ぼくは川でザリガニやさかなをつかまえたり虫をとるのがすきだから、田んぼの学校でいろいろな生きものをみつけてつかまえたり、かんさつしたりできてたのしかったです。

川のそうじをしたらジュースのかんとかビニールとかいっぱいゴミがあってびっくりしました。

おもちがやわらかくておいしかったです。

また田んぼをやりたいです。 (幸太郎 8才)」

君嶋 結

「たんぼでドロドロになっておもしろかったです。むしとかオタマジャクシをつかまえてうれしかったです。(結 6才)」

君嶋 晶

「いねかりをがんばりました。おもちがやわらかくてたくさんたべました。(晶 6才)」

君嶋英一郎、君嶋厚子

「初めて田んぼの学校に参加しました。

最初に田んぼの場所に行った時には雑草が沢山生えていて、(ここをどうやって田んぼにするんだろう・・・)と多少不安な気持ちになりました。

川の掃除から始まったいちからの田んぼ作りは、それぞれの作業に理由があり、日々無意識に食べていたお米に対して、またお米作りをされている

方々に対して感謝の気持ちを持たねばと改めて思いました。

子供達と一緒に参加させていただき、普段はなかなかできない田んぼでのドロドロ体験や、様々な生き物観察、お米の種まきから収穫などなど、貴重な体験ができたことは本当にありがたいと思っています。

稲刈りの時には、子供だけでカマを使って刈ることが危ないと思い、初めは一緒にやっていたのですが、大人の作業が忙しかったために

結局子供だけで稲刈りをしていましたが、案外ケガをすることもなく自分でコツもつかんだようで、うまくカマを使いこなしていました。

危ないからと大人が心配してあれこれ手を出すよりも、本当に危険なことだけを教えてあとは子供に任せることも大切だなあと実感しました。

お米作りに詳しい方、草花に詳しい方、生き物に詳しい方などなど、田んぼの学校を通して多くのスペシャリストと接することができ、親子共々刺激をもらいました。

収穫祭でいただいたつきたてのお餅の柔らかさ、自宅で炊いたできたてのご飯のもちもちで甘い美味しさ、自分たちで種まきをしただけに美味しさも格別でした。

ご指導くださった尾辻さんをはじめ、田んぼの学校に関わる全ての方に感謝もうしあげます。ありがとうございました。 (英一郎・厚子)」

以上です。

よろしく申し上げます。



〈田んぼの学校に参加して〉

近所の方が以前参加していると聞いて、気になっ

いた田んぼの学校に今年参加できるとなるととても楽しみにして

いました。せっかく自然に近いところに暮らしているのだから、ぜひ娘に

その自然を身近に感じてもらいたい、という気持ちが半分。そして実は今まで

田んぼも稲刈りも自分自身が体験したことがなかったのだ。ただただ

やってみたい、という気持ちが半分でした。実際に体験してみると、娘(6才)は

どうにもイヤ、農作業も大変、とちろちろお利々利々ではなかったのだが、

どうやらお米がどのくらい段階を踏んで学んだこと、米作りの大変さがわかり、

お米や食べ物大切さがわかってくれたのではないかと思っています。収穫祭が

ちろちろとしたり、そのちろちろを食べて、あるいはボイキャンで火起こしをした

のがとても楽しかったのだ。私は、毎回書いていた「おたより」を

とても興味深く拝読いたしました。お米のタネの話、稲刈りの話、

農具の話などとても考えさせられるお話でした。今後、私たちの

食事はどうなっていくのか、いろいろ心配なことが多々ありますが、

これからいろいろ考えていくきっかけになりました。ありがとうございました。

ました。

2018.3.6.

榎本 暁

The image shows a musical score page with a central area for lyrics. The score is written on a staff with a treble clef and a key signature of one flat. The tempo marking 'ad libitum' is visible on the right side. A decorative illustration of a leafy branch is placed in the upper left corner of the lyrics area. The lyrics are written in Japanese and are enclosed within the musical staff lines.

© The Royal Botanical Society / Fielding Library

ad libitum



たんまのかごうにさんかじよかったです。

おちつきとひあしがたのしかったです。

ひをつけるのたいへんたいたけい

ひついでよかったです。

ありがとうごさいました えのもとあかり

普段経験する事の出来ない田植えなどの経験や、お米ができるまでの大変さなどを娘にも感じて欲しく、田んぼの学校に参加させていただきました。

家族で田んぼの学校での出来事を話したり、台風が来た時には家族みんなでカカシやイネの心配をしたり、田んぼの学校が無い時でも田んぼの様子を見に行ってみたりと、田んぼが身近な存在となった1年でした。

授業の内容によっては、親と娘とでやる気具合が随分と異なる時もありましたが、カカシ作り、火起こしなどの家族で協力して行うイベントや、参加者全員で協力して成し遂げる作業も多数ありと、お陰様でいろいろな事を経験する事ができ、親子共に充実した学校生活を送る事が出来ました。

いろいろご指導下さった尾辻さん、そして共に田んぼの学校に参加した皆さん、ありがとうございました。

榎本 篤

田んぼの学校の感想

えんどうかおり

楽しかった！です。小さな種もみから収穫後の
稲わらの縄なまで、無駄なものは何一つない
ことを実感しました。特に田植えのときの、はだし
で入った田んぼの心地よさ…忘れられません。

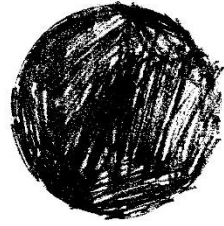
一年間 ありがとうございます！！

楽しかったよとくに田んぼのどろろを
ふむところかたのけがたです

世
木

どろばん=かたのじかた
です

みかたゆきと



田んぼの学校 1年間のお米づくりを通して学んだこと

高橋 拓土

その一手間が美味しさの秘訣で、豊産されているお米と異なるところだという事。生産性は下がるが、そこで美味しさに差が出ることを知った。実際に機械の技術が発達しても技術だけでは解決できない美味しいものを作るノウハウがあることを今回家族で肌で感じる事ができたのが一番の収穫でした。

たんぼだけに。

高橋 明香

お米づくりを年間を通して体験することによって、季節の移り変わりとともに変化する田んぼの様子を知ることができ、貴重な経験となりました。田んぼの生き物や植物を観察したり、土に触れ、五感を使っての作業は、不思議と心が落ち着き、子どもたちも予想以上に生き生きと楽しんでいたので、やはりこういった身体をつかっての経験は大切だし、これからも引き続いて行ってほしいなと感じました。自分たちでつくったお米は本当に美味しくて、一粒のお米のありがたさもまたしみじみ噛み締めました。ありがとうございました。

たかはし はるか

どろんこで どろどろになったのが たのしかった。
ほんとうは どろんこになりたくなかったけど、
やってみたら たのしかったです。
かかしづいかに「たのしかった」です。

感想文 2018年3月11日 黒木裕貴

田んぼの学校に入学する5~6年前から我が家では
知人の米づくりを毎年手伝っていました。ところが、知人が
体調を崩し、続ける事ができなくなり、僕的には
「田んぼロス」だったところ奥さんから田んぼの学校
の話を知り、興味があり去年初めて参加させて
いただきました。ただ手伝いに行くだけでは知り得
なかつたことを沢山知ることができました。

人の手による米づくりというのはとても大変なことだと
(機械にたよらない)
思うのと同時に、1年のサイクルというものをリアルに体感でき
て、おもしろい。

それを続けてきた人々の歴史、宇宙規模の歴史に
思いをはせる41才の春です。

皆様、ありがとうございました。

1年間の「田んぼの学校」を振り返る。

黒木 瑛子

自宅から自転車で10分ほどのところに田んぼがあるんですよ！
初めて知った時は驚きとワクワクでいっぱいになりました。

0歳児を連れての参加は不安もありましたけど、
9歳の長男も4歳の娘も、調布の空の下で楽しそうに
参加している姿は、親にとっても嬉しかったです。

「田んぼ、どうやってるのよ？」

「カモに食べられちゃってないのよ？」

「かかしのおまけ、ちゃんと立ってるのよ？」

「刈り獲採でおもろく食べられるの楽しみだね！」

そんなことを言っているから、授業のない日も田んぼの木菜子を見に行き、たことも、親子のいい思い出となりました。

遊びに夢中になって、手云うことばかりで、よく豆貝にたい
日もありましたけど、それでも種籾から育て、自分たちの
口にお米が入るまでの過程を1本體でできたことは、
子ども達にとっても、そして親にとっても、貴重な体験です。
そして、ここで木菜子の方と出会い、一緒に手を動かしたり、
食を共にしたりしたことも、とても有難いことだと感じています。
皆さん、1年間、本当にありがとうございました！

田んぼの学校かんそう文

黒木 スバル

ぼくは、田んぼの学校を一年間
や、てたのしかたことをしょうかいします。
まず一つめは、ぼくはもともといねかりが
すきだったので、できてよかったです。二つ
めは、けんどうの大会のかえりにちゅうど
おなかがすいていたところでもちを
食べられたことです。三つめは、すいろ
を作るときにあなをほったことです。ぼ
くはカシゴトがやりすきです。さいご
にすいろでカメを見つけたことです。ぼ
くは、生き物がすきなので見つけ
たときとてもうれしかったです。きょうの
そつぎょうしきは、おもいっきり楽しみ
ます。

田んぼには、牛まものがいっぱいいました。
 田んぼのときは、おけらかおたまじやくし、
 田んぼのときは、かえるがバツタがいっぱい
 います。いなかがいいなと思いましたが、もう
 一回田んぼの学校をうりたいぐらいです。

おがわ
 マコ
 せい

作	し	事	ろ	中	私	知	加	い	田
り	て	を	か	で	主	ら	を	る	ん
か	農	考	ま	一	体	な	し	と	ぼ
ら	作	え	も	番	で	い	て	思	の
種	物	る	う	に	参	事	み	い	学
の	の	と	一	思	加	ば	る	参	校
選	加	遠	度	い	し	か	と	加	と
別	正	慮	や	出	て	り		を	圃
、	を	し	れ	す	い	で	私	決	い
発	し	た	と	の	た	ど	自	意	て
芽	て	い	い	は	様	ん	身	し	予
等	い	る	わ	し	に	ど	が	ま	供
農	る	私	れ	ろ	思	ん	米	し	の
業	私	に	て	か	い	探	作	た	教
の	と	と	も	ま	ま	究	り	。し	育
上	っ	職	次	す	。活	心	に	か	に
流	て	業	の	ろ	動	か	つ	し	適
を	、	と	日	か	の	湧	い	。参	し
体	土	と	の	ま	し	ま	て		て
験				し					

出来た事も少なからず役に立ちます。
一年間ありがとうございました。

平成三十年 三月十一日 小川 治

田んぼの学校を振り返ると沢山の皆さんが
笑顔ばかりが思い出されます。子供達が泥の
中に飛び込む姿、おけら等の生き物を採取し
喜ぶ姿、しろかきで大汗を流し談笑する大人
達、また等間隔で田植えを行えるよう誘導
ロップで工夫をしたり、かかしを作った稲を
守ったこと、稲刈り後に大事な稲が雨に濡れ
ないようビニールをかぶせる等、一つ一つの
作業に心がこめられて完成したお米は格別な
美味しさがありました。

普段当たり前前のように食べているお米の有
り難さを強く感じる良い経験になりました。
一年間、ありがとうございました。

小川 奈津子

田んぼの学校

小川 祥太郎

ぼくが田んぼの学校できおくにのいてい
 ることをうつは「ぴゅうします」。一番目は、
 かに山でのデイキャンプです。とくに、かに
 山でたべた、カレーライスのライスがじぶん
 たちで作ったとは、思えないくらいおいしか
 たです。二番目は、用水ろそうじです。用水
 ろにはたくさんのいきものがいてびっくりし
 ました。そのときつたザリガには、うちで

が、ていてまだいきてます。ろばんめは、し
うかくさいです。そのときのきねが、うでが
いたくなるほどおもかつたげれとおもちば、
もちもちのびて、おいしかったです。

た年間、ありがとうございます。田んぼ
の学校でのけいけんをいかしていきたくと思
います。

田んぼの学校で過ごした一年は、多くの気づきや発見のあつた一年でした。

お茶碗一杯のお米が、多くの過程、多くの時間をかけてできあがってくることへの感謝の気持ち、手作業と機械作業の違いを体感すること、稲作を文え進化させてきた人達への尊敬の気持ちを感しました。

また、普段何気なく見ていた用水路の水の量やゴミが気になるようになったり、お米だけだけでなく、一つの食材が多量の苦勞の下でできあがってくること、大事に扱わなければいけないと実感したりすることができました。

自分の住んでいる町で、稲作が行える環境があるのは、本当に貴重なことで多くの人が大切に守ってきた環境だと思えます。生き物や自然とともに水くこの環境で生活していくためにも、日々の生活を丁寧に生活していくことが大切なことだと思えました。

最後になりましたが、家族と共に楽しみながう作業に参加し、一年を通して一つのことを共有し、やり遂げたことは本当に良い経験になりました。尾辻校長はじめ、奥様やサポートスタッフの皆様一年間ありがとうございました。

前田 愛子

ぼくが田んぼの学校でいんしやうにのこつた
ことはろつあります。一つ目はさいしやう
しためだしです。二つ目は生き物がんさつ
です。ざりがにやがえる、おたまじ
くしやえびをつかまえて生きものを見るの
もおもしろか。たです。三つ目は田植えご
す。田植えは見るのもやるのもはじめてのこ
とで、足が泥にうまって、動きにくか。たり
手も泥だらけにな。たりしたけど、いねを少
しずつ、自分の手で植えられたのがとてもお
もしろか。たです。

前田　りよ　うが

ぼくか思いでにのこったのは二つです。一つ
目しろかきです。たのしか。たし、あしかどらに
はまってたりへんでした。二つ目はいおがり
です。かまをつかうのかあずかしくてなかな
かうまくできなかつたけどやっけるうちに
上手になつてしまふのでとてもおもしろがった
です。田んぼのか、二つに入つてよかつたで
す。

まねだしゅんき

一年間、大変ありがたうございました。
田んぼの学校を通し、調布の四季、土地、生
き物、植物、そして「ヒト」に接すること
で自分の住む街の新たな魅力を見出すことが
できました。またコメづくりにチャレンジす
る過程で、家族全員で多くのワクワク感や運
成感を体験することもできました。
今後も家族みんなで、新しい調布をみつ
め、一緒に楽しみや喜びを感じながら続けたい
と思います。

調布市佐須町

前田雄月

どろあそびがたのしかつたです。

またその

一年間、お米づくりを通して学んできたこと。

それは、単にお米をつくるということだけでは無かったと
感じています。娘と一緒に参加させていただけ

田んぼの周りの環境のことから、子どももの心に帰れるような
「くろつけ」の泥の感触を楽しんだり、天候にも左右される
米づくりの厳しさ、そして脱穀した後の稲わらも、しめ縄や
縄など余すことなく利用できる昔の人々の知恵にも
触れることができ、自分が暮らしている環境が何と曲がかか
ことだろうということをも改めて感じることもできました。
一年間お世話になりました。

また来年度も引き続きお願いします。

曾根かな子

田んぼの学校

わたしは一年間を通して田んぼの学校
でお米の作り方を勉強しました。

田植えの時、どろに入ったり思っていたより
も、どろがどろどろしてびびりしまし
た。見ていた時はかんたんそうだけどやっ
てみるとむずかしかったです。いねかりで
いねがいばいだたのでかるのが大へんで
た。

一年間でぎんかできなかつた行事もいば
いあ。たので、来年はやりたいです。じゃ
かくしたお米もおいしかったです。

曽根 みりか



Theme _____

No. _____

Date 2018 3.11 ()

2017年 田んぼの学校をふりかえり

5年目の田んぼの学校をふりかえり2017年。

日常のPTA活動が忙しくなり、なかなか田んぼの学校の活動に参加できませんでした。

一言、スタッフ的な立場で見ていることも多くなり、参加していても作業の没頭が足りず、道具は足りているが、クワ内土の感触はかわらないかなど心配することも多かったです。

また、夏の野川の温水、ヒキガエルのアマジャクシの激減、毎回参加しては割にはオコエオコ 可愛いおこしでした。

どれも稲は生長しお米となり、いく自然の恵に感謝。
是れこそ夫專のご努力、田んぼの仲間のおつとめがらの活躍に感謝する1年でもありました。

何れも参加して下さるおこしありまへ、家族ともども来年もがんばりたいと思っております。戻り土、省エネ引上げ、よろしくお願ひします。

増川邦弘

平成30年 3/11

はざかけの時に、バッタをつかまえて、
カマキリに、バッタを食べさせた。して、
バッタは、とてもみじかに、いるんだな、
思いました。バッタはつかまえるのは、
たはすしかたが、30匹ほどつかまえました。
増川弓木 とも、楽しかったです。

田んぼの学校 感想文

増川 和美

田んぼの学校 5年生が修了しました。
毎年新しい発見とたのしみがあります。

- 1年目 ... 本当にお米が実った！ 太陽・水・土で自分たちの食べる
ものを作ることができる楽しみ。
- 2年目 ... } ムダがない！
- 3年目 ... } 作業は全部つぼがっている。米づくり、いつからか
スタートなのか？と思うくらいに、作業はつぼがって
います。冬の作業は、春にむけた準備です。
わら1本、かえ葉1枚、むだにしません。
- 4年目 ... 田んぼの作業を通じた、皆さんとの交流・協力が
楽しかった。
学校は共同体で、田んぼは共働作業！
- 今年 ... 作業の前の準備、片付け！
日程の半分くらいしか参加できなかったのに、
準備、片付けをお手伝いするようにしました。
ほんの少しでもお役に立つことができれば嬉しいです。

来年はどんな発見や楽しみが待っているのでしょうか。
何の関心も持たなければ、田んぼはただの田んぼです。
手と足と口と心を動かすことによって、大切な田んぼになります。

今年も1年間 色々とお世話になりました。
尾辻さんご夫妻、参加者の皆様、ありがとうございました。

<田んぼの学校の感想>

村田 わかば (4才)

- ・ どんあそびが楽しかったです
- ・ とくに、かかし作りはくぎを打ったりできて
良い経験になりました。

村田 しんき (6才)

どんあそびでたのしかた。

村田 こうき (8才)

ぼくは、お米のたいせつさをしらなからたけど、田んぼの
学校にかよってからお米のたいせつさがどんどん知って
きました。ニつめは、こうたろうくん立ちと、いっしょに、ざりがいに
なつかまえにいったことです。さいしは、こわがらいてざりがい
にをつかまえられませんでした。やう気を出してやってみると、ざ
りがいにをまたのでうれしかったです。来年をいけるきん
ががあれば、いきたいです。

<村田 具也>

<村田 久美>

今年で2年目の参加となりました。田んぼを作り、お米を作る事の大変さも子どもに体感してもらうことで、ごはんのありがたさ、作っている人の気持ちも学んでほしいと思、ていました。2回目という事で今年も参加した日に日記を書かせる事にしました。その時感じた事を記録した事で、年を振り返る事ができました。今後の人生にこの学んだ事が少しでも記憶に残れば良いと思います。

特に田んぼを作る課程は私自身もとても楽しくする事ができましたし、かかし作りも今回は事前に準備する事ができ、昨年は良い出来なりました。年間を通じて、運営して頂いたみなさん準備、段取り等ありがとうございました。とても有意義な経験となりました。

農作業は元々興味があり、なんとなく見聞きして、知ってはいましたが、実際にやってみると大違い。人間が自然の力を理解し、頭を使い、自らの身体を動かし、その力を活用して恵みを得るといういたってシンプルで大事な営みを体験できたのはとても大きいことでした。また何十年ぶりに、幼少期に遊んでいた「かに山」や「柏小前の用水路」を目の前にして、記憶がよみがえるうれしさもありました。

息子のためにと参加しましたが、そっちのけで初めての作業に没頭するという充実した時間も過ごせました。息子も年代の違う活発なお兄ちゃん・お姉ちゃんにもまれたくましくなったのではと思います。昨夜、何が一番楽しかったと聞いたところ、「はる君とバッタを取ったこと」とかなりピンポイントな答えでしたが、しっかり記憶に残っているようです。

楽しい一年でしたが、ひとつ心残りが。気まぐれな天候のために、収穫祭に参加できませんでした。ここでも自然の力にあらがえないことを痛感させられました。次回必ずやりベンジします。

一年間ありがとうございました。

池上恭史、雅子、太力

田んぼの学校の授業に参加して (29年度)

田原 晋介 (父)

田んぼの学校に入学してから7年が経ち、今年は何年か振りにデイキャンプで火おこしにチャレンジしました。もう技術は習得済みと余裕をもって挑みましたが、メラメラ燃えるのは他の囲炉裏ばかり…。娘から応援されながら、消えそうな火を必死でつなぎとめ、尾辻さんのOKを待ちました。

7年経ってもアウトドアの達人には程遠く、自然の中ではひ弱な私ですが、田んぼの学校のおかげで苦手な虫とも仲良くなれ、自然豊かな調布が大好きになりました。

今の時代この自然豊かな環境は守ろうとしないと失われていく中で、自分に何ができるのか考えながら小さなことでも積み重ねていこうと思っています。

田原 早希子 (母)

長男が3才の時に田んぼの学校に入校し、その年に生まれた娘が6才になり、もうすぐ小学生になります。

入校した時期が東日本大震災の直後だった為、田んぼの学校での7年間を振り返ると、計画停電、放射能問題等、様々なことがあったことを思い出します。便利とは何か、大切なものは何かを学んだ7年間でした。

田んぼの授業を通して、昔の人は自然を最大限に利用して生活をしていたのだということ、すべての物を無駄なく使っていたのだという事を学びました。ゴミを減らしたり、無駄な電力を使わないようにしたり、できることから始め、自然を汚さない努力をしていきたいと思っています。

田原 大悟 (小4)

土日はサッカーがあるので、全然行けなくなってしまったけれど、田んぼのおかげで、虫にもだいぶ慣れて、泥は苦手ではなくなりました。ありがとうございました。

田原 鈴 (6才)

かに山のデイキャンプで、木に登ったり、ブランコをしたりして遊んだ事が楽しかったです。

2017 年度田んぼの学校を振り返って

渡部 縁

お友達から「田んぼの学校」を教えてもらい、2歳の息子にはまだ早いかなという気持ちもありましたが、自然とふれあえる機会を設けたいという気持ちで、家族3人で参加させて頂きました。

やはり2歳の息子には「田んぼ」というものはなかなか理解できず、最初はただそこにいるだけ、時には帰りたいと泣かれ、なかなか親が思うようにはいかないなと思っていました。

しかし回数を重ね、息子も成長していくにつれ、自然にも興味が出てきて、用水路や田んぼの虫たちを興味深く観察したり、草花に興味を持ったり、お米をつくるという本来の目的も子どもながらに理解しようと頑張っているように見えました。

最初は帰りたいと泣くこともあった息子でしたが、後半には自ら「田んぼ行くよー」と田んぼへ行くことを楽しみにしていました。

最近ではなぜか脱穀前のお米をポケットに入れて持ち歩き、人に会うと「お米だよ」と嬉しそうに見せています（笑）

息子にとっても楽しい思い出になってくれたようです。

小さい頃から田んぼのある環境で育った私にとっては、懐かしくもあり、子どもの頃には理解できなかった「米作り」も勉強させて頂き、大変貴重な経験となりました。

大人になってからはなかなか触れることのない昆虫たちとの触れ合いも刺激的でしたし、デイキャンプや収穫祭などは童心にかえって楽しませて頂きました。

なかなか上手くできなかったデイキャンプでの「火おこし」は特に思い出に残っています。

そして私にとって一番良かったことは、田んぼを通して地域の方と交流を持ち、その中で子どもの成長を感じることが出来たことです。嬉しかったです。

この田んぼの学校で過ごした1年間は、私達家族にとって大変素晴らしい時間となりました。

校長先生をはじめ支えて下さった皆様、本当にありがとうございました。

田んぼの学校

萩谷詩絵里(113)

わたしが小学校に3年生に転校したとき先生が
 『ごはんのつづがとてものこっているのでもつづものをこさず食べて下さい』と
 いていてわたしはなまのおこめをゆとつものこしちいけなひのかかあまり
 わかりませんでした。なので、なまとなまごはんのつづをなくして
 いましたが田んぼの学校交をやってみてそのぎもんに
 おもったことがわかりました。一年間くろうして作っているから
 たと考えました。だから先生はつづのつづがわかりました。
 あらためて田んぼを作っている人はきまじいと思ひました。
 お米

田んぼの学校

萩谷奈津子(母)

木のきまじい育った田舎は、家族総出で田んぼ
 仕事をやるのが、山間地でした。
 作業の合間には、かわいた土に腰をおろし、
 塩のかけおにぎりや弁当を食べるのがとても
 思い出のた記憶しています。

田んぼの学校は、人の手で田をおし、米を植えて
 刈り取る、とて、てねいな昔ながらの農作業をしてみよう
 何の仕事か、とて、思い切りましたか。てねいな
 かわいた土のた、昔ながらの、米の育て方を
 7くる大事なたと思ひます。

なまを、きまじい育った田んぼの学校、ありがとうございました。

(かんそう)

- くさかりをがんばりました。
- 「3っ目こぞう」のかかしをつくりました。
- そだてたおこめをつくった おもろが
おいしかったです。

すけい かい

◦1つ1つの米作りの過程に
志がわたり、先人の知恵と夫の
情がわたり、今の日本の農業が
あるのを感じました。
こんなにも暑い米作りの体験
ができるのは恵みあふれる中
置るべき体験としました。
あふれる愛です。鈴木規

◦用水路の清掃かとも印象に
残っています。以前は、この水で
お米を作っていたことも知らず、ゴミ
が落ちていても何も思いませんでした。
しかし、自分が実際にその水を使って
お米を作る立場になって初めて「もよ
ぎれいになては」と思いました。
鈴木博和

田んぼの学校 感想

保育園のお友達に、佐須で田植えとかをやっているグループがあつて、面白そうだから参加してみないと誘われたのがきっかけでした。わが我が家は夫婦2人、完全にインドアタイプの引きこもりなので、子供だけは自然に触れさせた方がいいだろうと思い参加しました。

正直なところ、子供が楽しければ良いと言う感じで、里山の保全とか環境問題などに興味があつたわけではなかつたのですが、一年間参加してみると少し見方が変わってきたかなと感じます。田んぼの周りも、数年前まで畑だつたところにどんどん住宅が立ち並ぶのをみると、これ以上は緑を減らさな減らないで欲しいと思つてしまいます。

カニ山も名前を知っているだけで、10年近く経っていたのですが、田んぼの学校のお陰で、実際に行く事が出来て、こんなに近くにこんなに素敵な場所があつたのかと思ひました。正月明けに、そこで新年会をやっているグループがあり、声をかけたところ、カニ山を守る会？というグループだという事で、我々の知らないところでいろんなグループが、自然を残す為の活動しているんだなということに改めて気づかされました。

最初は土や泥に触るのを嫌がっていた子供も、後半は慣れてきて、堆肥の天地返しの際に、いきなりてっぺんまで駆け上るようになって、少し変わってきたなあと思ひます。子供が自然に触れながら遊べる場所を残す為にも、自分たちが住んでいる地域に目を向けて、できることを地道にやれつていければいいなと思ひます。

六田ゆき

田んぼの学校感想 六田信彦

2018年3月11日 日曜日 11:15

仕事の都合で、行事にはあまり参加していませんでした。

そんななかで印象に残っているのは、用水路の清掃と生き物観察会です。

あのゴミがたくさん捨てられた、水の流れる溝が用水路だとは思っていませんでした。

入ってゴミ拾いをしてみると、実はいろいろ生き物が棲んでいるということがわかり、驚きました。

用水を生活に使うことはなく、これまで意識することはありませんでしたが、こんなところにも貴重な自然の一部があるのだと思いました。

六田信彦

田んぼの学校感想 六田伊織

2018年3月11日 日曜日 11:56

た い い
田んぼに行くよと言われたとき、ドキドキしました。
泥で遊んだことが楽しかったです。
どろ あそ べの

つくた
い い
あそ べの

たんぼに いくよと いわれた とき
ドキドキしました

どろで あそんだことが たのしかったです。

7. 総括報告

「野川で遊ぶまちづくりの会」

代表 尾辻義和

「田んぼの学校」という形で再スタートした、「野川で遊ぶまちづくりの会」の「米つくり」も第17期を終えることになりました。今年度の参加者は基礎講座1組、親子講座41組、スタッフ11名、総勢155となりました。

田んぼの作業は毎年同じ作業の繰り返しですが、同じようにできる事は減多になく、目が離せません。幸い生育は順調で、玄米にして99Kgほどを収穫しました。

今年度も、参加して頂いた方々には感想を書いて頂きましたが、「田んぼの学校」の趣旨がきちんと伝わっている事にたいへん嬉しく思っています。年々、参加したいという方が口コミで増えており、ほとんどの皆さんが継続して田んぼをやりたいと言っておられ、かといって、新しく応募される方にも加わっていただきたいとも思っているため、耕作面積は何とか増やしたいと今後も行政など関係する方々をお願いする次第です。

今年度は、調布市の事業により、柏野小学校東側の農地が取得され、2年後の32年度運用に向けて暫定活用が決まりました。今後、32年度の本格活用に向けて、私たちのこれまでの活動を活かした提案をしたいと考えております。

昨年も要望いたしました。多くの市民が集まって行うため、以下のような問題も放置できなくなりつつある状況にありますので、行政に少しでもご配慮いただければ幸いです。

- (1) 手洗いやトイレ（現在は、竹内さんの設備を使用させていただいている）
- (2) 休憩場所（竹内さんの敷地や道路を使用している。特に道路は子どもたちが遊んだりするため、通行する車に迷惑を掛けている）
- (3) 道具類の置き場所（現在は、竹内さんの納屋などを使用させていただいている）
- (4) 農器具が老朽化（耕運機、糶摺り機）して壊れてしまったので、代替の機械がほしいところであるが、適当なものがない。現在は中古を購入している。

他にもスタッフ不足など問題はありますが、基礎講座を続ける方をお願いをしてスタッフになっていただきました。さらに、ちょうふ環境市民会議のサポートをいただくなど、少しずつ前進していきたいと考えております。皆様のご指導、ご協力をお願いして、総括とさせていただきます。

以上

付録 調査記録

佐須用水路、田んぼ動物確認種報告書

田んぼ植物確認種報告書

調査場所：佐須用水（本流及び分流）

調査日：2017年4月23日（日）

調査方法：目視観察、タモ網による任意採集

天候：晴

確認種一覧（赤字は移入種であることを示す）

〔環形動物門〕

1. イトミミズ科の一種 *Tubificidae Gen. Sp.*（イトミミズ科）

〔節足動物門〕

2. フタスジモンカゲロウ *Ephemera japonica*（モンカゲロウ科）
3. コカゲロウ科の一種 *Baetidae Gen. Sp.*（コカゲロウ科）
4. ハグロトンボ *Calopteryx atrata*（カワトンボ科）
5. オニヤンマ *Anotogaster sieboldii*（オニヤンマ科）
6. シマアメンボ *Metrocoris histrio*（アメンボ科）
7. ニンギョウトビケラ *Goera japonica*（ニンギョウトビケラ科）
8. コカクツツトビケラ *Lepidostoma japonica*（カクツツトビケラ科）
9. ホソバトビケラ *Molanna moesta*（ホソバトビケラ科）
10. ニッポンホソカ *Dixa nipponica*（ホソカ科）
11. ユスリカ科の一種 *Chironomidae Gen. sp.*（ユスリカ科）
12. カ科の一種 *Culicidae Gen. sp.*（カ科）
13. ガガンボ科の一種 *Tipulidae Gen. sp.*（ガガンボ科）
14. ミズムシ *Asellus hilgendorfi*（ミズムシ科）
15. フロリダマミズヨコエビ *Crangonyx floridanus*（マミズミズムシ科）
16. ミナミヌマエビ *Neocaridina denticulata denticulata*（ヌマエビ科）
17. シナヌマエビ *Neocaridina denticulata sinensis*（ヌマエビ科）
18. スジエビ *Palaemon paucidens*（テナガエビ科）
19. アメリカザリガニ *Procambarus clarkii*（アメリカザリガニ科）

〔軟体動物門〕

20. カワニナ *Semisulcospira libertina*（カワニナ科）
21. サカマキガイ *Physa acuta*（サカマキガイ科）

〔脊索動物門〕

22. スミウキゴリ *Gymnogobius petschiliensis*（ハゼ科）

確認種（状況）による評価：

今回確認した種の多くは例年と同じく、富栄養環境に多く出現する種であった。

種数が減少した直接的な原因についてみると、特に、水路における落ち葉とどんぐりからなるリターの堆積が著しく、逆に水路内に生育していたオランダガラシ等は減少していた。

ここ数年記録がないホトケドジョウは、今回も確認されなかったほか、優占種であったフタスジモンカゲロウも激減していた。

調査時における水自体の透明度は高く、水質自体が悪化した印象は無く、単純に底質組成が変化したこと起因したものと同様に推察される。



コカクツトビケラ属の一種



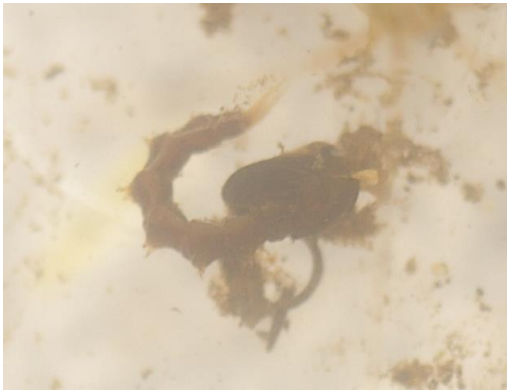
ユスリカ科の一種



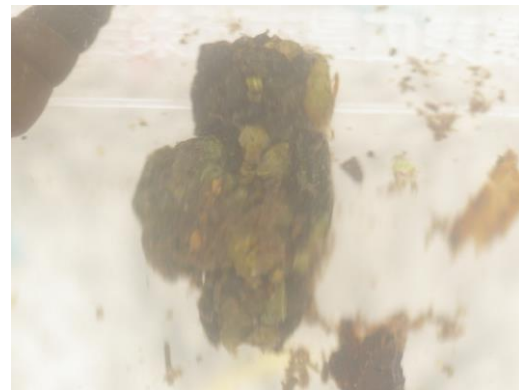
サホコカゲロウ



フタスジモンカゲロウ



カ科の一種



ニンギョウトビケラ



ニッポンホソカ



カワニナ

調査場所：佐須水田及び佐須用水分流

調査日：2017年7月9日（日）

調査方法：目視観察、タモ網による任意採集

天候：くもり時々晴

確認種一覧（赤字は移入種であることを示す）

〔環形動物門〕

1. イトミミズ科の一種 *Tubificidae Gen. Sp.*（イトミミズ科）

〔節足動物門〕

2. コカゲロウ科の一種 *Baetidae Gen. Sp.*（コカゲロウ科）
3. シオカラトンボ *Orthetrum albistylum speciosum*（トンボ科）
4. シマアメンボ *Metrocoris histrio*（アメンボ科）
5. アメンボ *Aquarius paludum*（アメンボ科）
6. ハイイロゲンゴロウ *Eretes sticticus*（ゲンゴロウ科）
7. チビゲンゴロウ *Hydroglyphus japonicus*（ゲンゴロウ科）
8. イネミズゾウムシ *Lissorhoptrus oryzophilus*（イネゾウムシ科）
9. ホウネンエビ *Branchinella kugenumaensis*（ホウネンエビ科）
10. ミナミヌマエビ *Neocaridina denticulata denticulata*（ヌマエビ科）
11. シナヌマエビ *Neocaridina denticulata sinensis*（ヌマエビ科）

〔軟体動物門〕

12. カワニナ *Semisulcospira libertina*（カワニナ科）
13. サカマキガイ *Physa acuta*（サカマキガイ科）

確認種（状況）による評価：

今回確認した種の多くは例年と同じく、一般的な水田環境に多く出現する種であった。ホウネンエビも確認され、水田生態系は、例年と同じ状態で維持されているものと考えられた。

ただし、春季に確認されなかったホトケドジョウは夏季も確認されず、本水田では絶滅した可能性が高いと考えられた。

佐須用水本流は、渇水の影響により水が無くなり、水生生物が生息できない状態であった。こうした状況下において、水田に水が張られ、多くの水生生物が確認されたことは、渇水時の生物のソースエリアとして重要な役割を果たしていると推察される。

田んぼの植物確認記録

種名	確認箇所			備考
	2015.4/2	2016.3/24	2017.4/5	
スズメノテッポウ	田んぼ	田んぼ	田んぼ	
スズメノカタビラ	田んぼ	田んぼ	田んぼ	
ナズナ	田んぼ	田んぼ	田んぼ	
レンゲ	×	田んぼ	田んぼ	昨年より少し多い
コオニタビラコ	田んぼ	田んぼ	田んぼ	今年は少ない
ムシクサ	田んぼ	田んぼ	田んぼ	今年は少ない
トキワハゼ	田んぼ・畦	田んぼ・畦	田んぼ・畦	今年は少ない
セリ	田んぼ・水路	田んぼ・水路	田んぼ・水路	増えている
オオイヌノフグリ	畦	畦	畦	
オランダミミナグサ	畦	畦	畦	少ない
ヒメオドリコソウ	塀際	塀際	塀際	
ホトケノザ	塀際	塀際	塀際	観察会時は枯れ(2017/4/16)
ヘビイチゴ	畦	畦	畦	増えている
ノゲシ	田んぼ	田んぼ	田んぼ	少ない
ウシハコベ	塀際	塀際	塀際・畦	
カタバミ	塀際	塀際・畦	塀際・畦	
オランダガラシ	水路内	水路内	水路内	少なめ
ヨモギ	畦	畦	畦	
カントウヨメナ	畦	畦	畦	
アブラナ科の一種	×	畦(ルッコラ)	田んぼ	野菜のタネが周りの畑から来た
タネツケバナ	水路	水路・田	畦	観察会時は枯れ(2017/4/16)
イヌコハコベ	畦	畦	田んぼ	
ノビル	畦	畦	畦	
シロザ	田んぼ	田んぼ	田んぼ	隣の畑で増殖したタネが侵入
ムラサキサギゴケ	畦	畦	畦	とても少ない
アメリカフウロ	×	畦	畦	増えている
ナガミヒナゲシ	×	畦	畦	
ハルジオン	×	田んぼ	×	
アカミタンポポ	×	畦	×	
ノボロギク	×	田んぼ	×	
カラスノエンドウ	×	×	畦	隣の畑から侵入？
合計	23	30	28	

発 行

2018年7月29日

野川で遊ぶまちづくりの会

代表 尾辻 義和

〒182-0015

調布市八雲台2-20-8-201

電話 042-487-4385

Mail otsuji@y.email.ne.jp

URL <http://nogawa-tanbo.sakura.ne.jp/>